デジタル プロジェクター

取扱説明書

ホームエンターテイメント シリーズ | TK705i/TK705STi

V 1.01

著作権と免責事項

著作権

Copyright © 2026 by BenQ Corporation. All rights reserved. 本書のいかなる部分も、BenQ Corporation の事前の書面による同意なく、電子的、機械的、磁気的、光学的、化学的、手動その他の手段を問わず、複製、転載、改変、検索システムへの保存、他言語またはコンピュータ言語への翻訳を行うことはできません。

Bluetooth® マークとロゴは Bluetooth SIG, Inc. の登録商標であり、BenQ Corporation はライセンスのもとにこれらのマークを使用しております。

iOS は米国およびその他の国における Cisco の商標または登録商標です。
macOS® は米国およびその他の国における Apple Inc. の登録商標です。

Google TV は本製品のソフトウェアの名前であり、Google LLC の商標です。Google、YouTube、Google Cast、YouTube Music、およびその他のマークは、Google LLC の商標です。

NETFLIX

Netflix は Netflix, Inc. の商標です。

Dolby AUDIO

Dolby Laboratories からライセンスを受けて製造しています。Dolby、Dolby Audio およびダブル D 記号は、Dolby Laboratories Licensing Corporation の商標です。

HDMI™ HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface という語、HDMI のトレードドレスおよび HDMI のロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。
本書に記載されているその他すべてのロゴ、製品、会社名は、各社の登録商標または商標であり、ここでは参照のみを目的として使用されています。

免責事項

BenQ Corporation は、明示的または暗示的を問わず、本書の内容に関して、特に保証、商業的可能性、特定目的への適合性に関しては、いかなる表明または保証もいたしません。さらに、BenQ コーポレーションは本書を改定する権利と、このような改定や変更についていかなる人物に対しても BenQ コーポレーションが通知する義務を負うことなく内容を変更できる権利を有しています。この取扱説明書は、最新かつ正確な情報を提供することを目的としているため、将来予告なく変更される場合があります。本書の最新版は、http://support.benq.com からご覧いただけます。
製品出荷時にインストールされていないソフトウェア、パーツ、および本来同梱されていないアクセサリを使用した結果、問題（データの消失またはシステムの不具合）が生じた場合は、お客様ご自身の責任となります。

保証

BenQ は、本製品が正常に使用および保管される場合に限り、本製品の材料および製造上の瑕疵がないことを保証します。
保証を受ける際には、購入日の証明が必要となります。保証期間中に本製品に瑕疵があることが判明した場合、BenQ の全責任と、お客様に対する全面的な補償は、瑕疵のある部品の交換（工賃を含む）に限られます。保証サービスを受ける場合は、製品を購入した販売店に直ちに連絡してください。
重要：お客様が BenQ の文書による指示に従わずに操作を行った場合はこの保証は無効となります。特に本製品は環境湿度 10% から 90% の間、温度 0°C から 40°C の間、高度 2000 メートル以下の環境でご使用になり、ホコリが立ちやすい場所での使用はお止めください。この保証により、お客様には特定の法的権利が与えられます。また、在住している国によっては、お客様にその他の権利が与えられることもあります。

詳細は、弊社ホームページ www.BenQ.com をご覧ください。

ハイパーリンクおよびサードパーティのウェブサイトに関する宣言

BenQ は、たとえこの製品からリンクされていたとしても、サードパーティが維持管理するウェブサイトや同様のリソースの内容には一切責任を負いません。これらのウェブサイトや同様のリソースへのリンクが提供さ

れていたとしても、明示または暗示の有無に関わらず、それらの内容について BenQ は一切の保証も責任も負いません。
本製品にプリインストールされているサードパーティのコンテンツやサービスは、「現状のまま」提供されます。BenQ は、明示または暗示の有無に関わらず、サードパーティが提供するコンテンツやサービスについて一切責任を負いません。BenQ は、サードパーティが提供するコンテンツやサービスが正確であること、効果的であること、最新の状態であること、合法または完全であることについて、いかなる責任も負いません。いかなる場合においても、BenQ はサードパーティの当事者の過失を含め、彼らが提供するコンテンツやサービスについて一切責任を負いません。
サードパーティが提供するサービスは、一時的または完全に終了する場合があります。BenQ は、サードパーティが提供するコンテンツやサービスが常に良好な状態であること、また発表したコンテンツやサービスの終了について、一切責任を負いません。
また、BenQ は、サードパーティが維持管理するコンテンツや同様のリソースでお客様との間で行われた取引については一切関与しません。
ご質問、ご意見は、コンテンツまたはサービス提供会社にお問い合わせください。

製品サポート

製品をより快適にお使いいただくために、最新のファームウェアへのアップグレード、および最新の取扱説明書の取得をお勧めします。
弊社はお客様に最新の正しい情報を提供するために、事前の通知なく随時内容を更新しております。本書およびその他の製品情報の最新版は、ウェブサイトをご覧ください。閲覧できるファイルはモデル毎に異なります。

1. お使いのコンピュータがインターネットに接続されていることを確認してください。
2. Support.BenQ.com からお住まい国のウェブサイトをご覧ください。ウェブサイトのレイアウトと内容は、地域や国によって異なる場合があります。最新情報については、定期的に次の情報をご確認ください。

- 取扱説明書と関連ドキュメント
- ファームウェアとアプリケーション
- よく寄せられる質問

保守

- 誤った方法で使用した場合、または事故が発生した場合は、専門のサービス担当者にお問合せください。

- サポートについては、購入元にお問い合わせいただくか、Support.BenQ.com からお住まい国のウェブサイトをご覧ください。

Support.BenQ.com

Q&A 索引

題目を選択してください。

セットアップ

プロジェクターを設定して電源を入れるには？
設置場所の選択 27
電源を入れて初期設定を行う 32

画像調整

投写映像の焦点を調整するには？
画像の明瞭さの微調整 46

投写された映像をスクリーンに合わせるには？
台形補正 47
スクリーンに合わせる 48

使用方法

無線投写するには？
無線投写（画面キャスティング） 58

プロジェクターを使って音楽を聴くには？
プロジェクターを使って音楽を聴く 62

メンテナンスと製品サポート

長期間プロジェクターを使用しない場合は？
プロジェクターの保管 80

目次

著作権と免責事項 2
著作権 2
免責事項 3
保証 3
ハイパーリンクおよびサードパーティのウェブサイトに関する宣言 3
製品サポート 4
保守 4
Q&A 索引 6
安全指示 11
同梱物 16
紹介 17
プロジェクター概要 17
概要 17
キーパッド 19
入出力端子 20
外形寸法 21
プロジェクターの接続 22
無線接続 22
有線接続（USB Type-A ポート） 22
有線接続（HDMI ポート） 22
有線接続（USB Type-C ポート） 22
リモコン 24
リモコンの作動範囲 26
インストール 27
設置場所の選択 27
映像サイズの調整 29
投写サイズ 29
高地でプロジェクターを使用するには 31
はじめに 32

電源を入れて初期設定を行う 32
電源 LED インジケータ 33
電源設定と省電力のオプション 35
プロジェクターをシャットダウンする 36
便利な BenQ アプリにアクセスする 37
プロジェクターにダウンロードしたアプリ 37
SmartRemote for BenQ Projector アプリをモバイルデバイスにダウンロードする 37
プロジェクターのアップデート 38
オペレーティングシステムのアップデート 38
高度なファームウェア アップグレード 38
取り付け 39
三脚の取り付け（別売り） 39
ネジの位置 39
柔軟な設定 39
三脚プレートを使う 40
天井取り付け 42
ネジの位置 42
天井取り付けを行う 43
上部調整脚を使う 45
投写画像の調整 46
画像の明瞭さの微調整 46
画像を画面にフィットさせる 47
台形補正 47
スクリーンに合わせる 48
障害物を取り除く 49
投写サイズおよび位置調整（デジタルズームと画像再配置） 49
画面の輝度を調整する 50
スマートアイプロテクションを有効にする 50
自動シネマモードで画質を最適化する 50

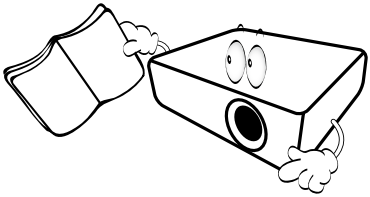
入力源の変更 51
ストリーミングビデオを見る 52
Google TV ホーム画面 52
ダッシュボード 53
ビデオストリーミングに適した画像モードを選択する 54
ビデオストリーミングに適したサウンドモードを選択する 55
ゲーム体験を向上させる 57
レイテンシー自動低減モード (ALLM) 57
ゲームブースト 57
投写 58
無線投写（画面キャスティング） 58
iOS/macOS デバイスからの画面キャスティング 58
Google Cast™ で Android™ OS デバイスから画面をキャストする 59
Google Home で Android™ OS デバイスから画面をキャストする 59
Google Cast™ で PC デバイスから画面をキャストする 60
有線投写 61
プロジェクターを使って音楽を聴く 62
プロジェクターを Bluetooth スピーカーとして使用する 62
Bluetooth スピーカーモードの LED インジケータ 63
プロジェクターを外付け Bluetooth スピーカー / ヘッドフォンに接続する 64
プロジェクターをワイヤレススピーカーとして使用する 64
音楽を再生中に映像を非表示（消画）にする 65
USB フラッシュドライブからマルチメディアファイルを再生する 66
USB Type-C デバイスへの給電 67
USB Type-C 給電についてのご注意 67
メニューを見る 68
デバイス名の設定 68
入力 69
プロジェクター 70

ディスプレイとサウンド 74
ネットワークとインターネット 78
アカウントとプロファイル 78
プライバシー 79
アプリ 79
システム 79
アクセスビリティ 79
リモコンとアクセサリ 79
ヘルプとフィードバック 79
メンテナンス 80
プロジェクターのお手入れ 80
レンズのクリーニング 80
プロジェクターの保管 80
プロジェクターの移動 81
光源情報 81
問題を解決する 82
仕様 84
プロジェクターの仕様 84
タイミングチャート 86
HDMI 入力 86
USB Type-C 入力 89
対応ファイル形式 91
ビデオ 91
オーディオ 92

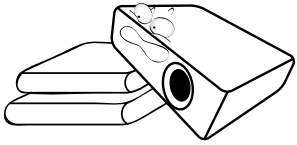
安全指示

お使いのプロジェクターは、情報技術機器の最新の安全規格に適合するように設計され、試験されています。ただし、本製品を安全にご使用いただくために、このガイドおよび製品のマークに記載されている指示に従ってください。

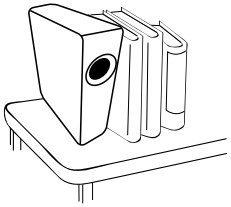
1. プロジェクターを操作する前に、この取扱説明書をお読みください。
   本書は必要なときにいつでも参照できるように、安全な場所に保管しておいてください。



2. 使用時は必ずプロジェクターを水平な平面上に置いてください。
   - プロジェクターを不安定なカート、スタンド、テーブルに置かないでください。プロジェクターが落ちてケガをしたり、プロジェクターが故障したりする場合があります。
   - プロジェクターの近くに可燃物を置かないでください。
     左右の傾きが 10 度、または前後の傾きが 15 度を超える状態で使用しないでください。

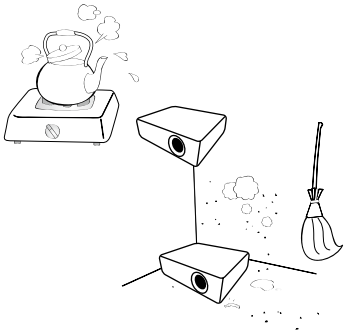


3. プロジェクターを縦向きにしないでください。縦向きにすると、プロジェクターが倒れ、けがをしたり損傷する恐れがあります。

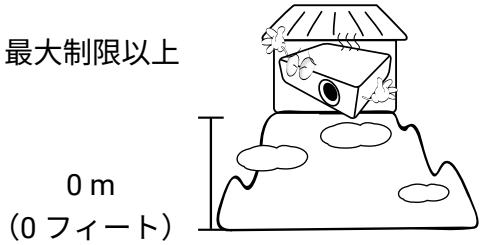


4. 次の場所にプロジェクターを置かないでください。
   - 通気が不十分な場所または密閉されている場所。壁との間隔を 50 cm 以上空けて、プロジェクターの周辺の風通しをよくしてください。

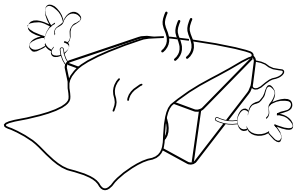
- 窓を締め切った車内など、非常に高温になる場所。
- 非常に湿度が高い場所、ほこりの多い場所、タバコの煙にさらされる場所。このような場所に置くと、光学部品が汚れ、プロジェクターの寿命が短くなり、画像が暗くなります。



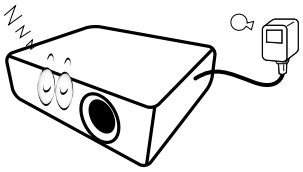
- 火災報知器に近い場所。
- 環境温度が製品の仕様書に記載される最高温度を超えるような場所。
- 製品の仕様書に記載される最高海抜を超えるような場所。



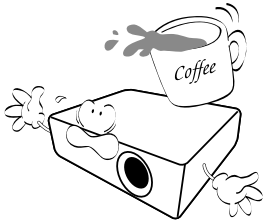
5. プロジェクター動作中に通気孔をふさがないでください（省エネモードでも同様）。
   - プロジェクターの上に布などをかぶせないでください。
   - プロジェクターをブランケットなどの寝具類、または他の柔らかい物の上に置かないでください。



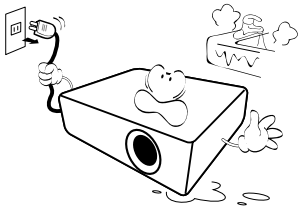
6. メインの電源電圧が ±10 ボルト程度変動する地域では、状況に応じてプロジェクターを電圧安定装置、サージプロテクター、または無停電電源装置 (UPS) に接続することをお勧めします。



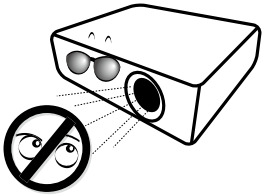
7. プロジェクターの上に乗ったり、物を置かないでください。



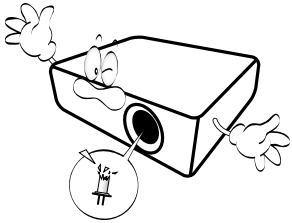
8. プロジェクターの上または近くに液体を置かないでください。プロジェクター内部に液体がこぼれると、保証の対象外となります。プロジェクターを濡らした場合は、電源コンセントからプロジェクターを外し、BenQ にご連絡の上プロジェクターの点検をご依頼ください。



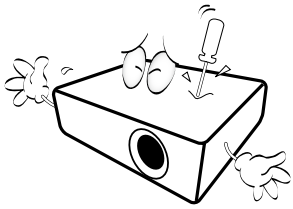
9. 動作中は、プロジェクターのレンズを覗き込まないでください。目を傷つける場合があります。



10. レーザーは定格寿命より長く使用しないでください。



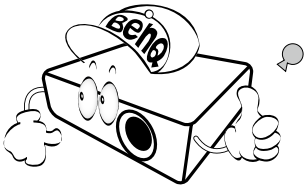
11. 本プロジェクターのキャビネットは開けないでください。内部には危険な電圧が流れており、触れると死に至る場合もあります。いかなる状況においても、これ以外のカバーをご自身で取り外そうとしないでください。修理はサポートセンターにお問い合わせください。



警告

- 将来搬送が必要な場合に備えて、元の梱包材料は捨てずに保管しておいてください。
- 使用後にプロジェクターを梱包する必要がある場合は、搬送中に製品が破損しないように投写レンズを適切な位置に調整し、レンズをレンズクッションで保護し、さらにレンズクッションとプロジェクタークッションをぴったりとくっつけてください。

12. 点検修理については、サポートセンターにお問い合わせください。



結露

寒い場所から暑い場所へプロジェクターを移動させた後は、すぐにプロジェクターを操作しないでください。このように温度が急激に変化した状態では、重要な内部部品が結露する場合があります。プロジェクターの故障の原因となりますので、このような状態では最低でも 2 時間以上経過してからプロジェクターを使用してください。

揮発性液体の使用の禁止

殺虫剤やある種のクリーナーなどの揮発性液体をプロジェクターの近くで使用しないでください。ゴムやプラスチック製品などを長時間プロジェクターに触れたままの状態で放置しないでください。プロジェクターに痕が残ってしまいます。化学薬品を染み込ませた布でプロジェクターを拭く場合は、本書に記載される安全のための指示にしたがってください。

廃棄

本プロジェクターには人体や環境に有害な素材が使用されています。

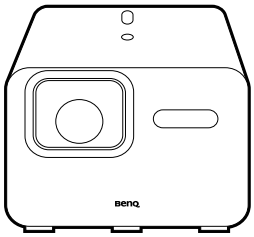
・ リード（はんだに使用されています）

製品を廃棄する方法については、各自治体の回収規則にしたがってください。

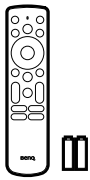
> **注意**
>
> ・本書に掲載される画像は参照用です。
>
> ・地域によって実際の内容は異なる場合があります。

同梱物

丁寧に開梱し、次に示すものがすべて揃っていることを確認してください。本製品を購入された地域によっては、同梱されていないアクセサリもあります。不足しているものがある場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。



プロジェクター



リモコン
（単 4 電池 2 個）
（一部販売していない地域もあります）



電源アダプタ



電源コード
（地域により異なります）



ユーザードキュメント

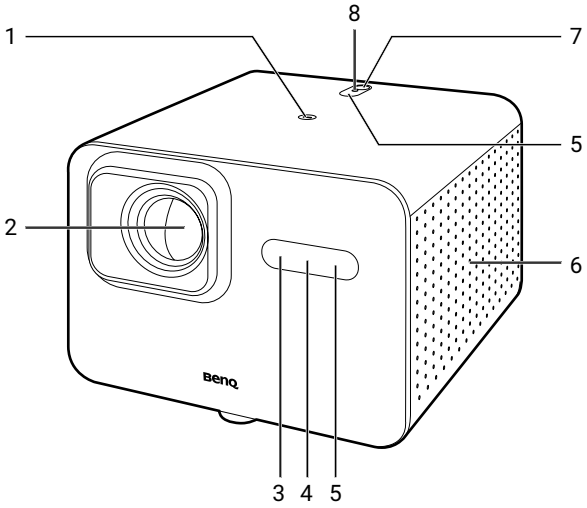
注意

- 製品の機能と仕様はすべて予告なしに変更されることがあります。
- 一部のアクセサリは、国によって異なる場合があります。
- 詳しくは販売店にお問合せください。または、ホームページ上で保証書をご確認ください。
- 互換性を保証するために、正規品のアクセサリをお使いください。
- 電源コードのプラグタイプは、お住まい地域の要件によって変わる場合があります。

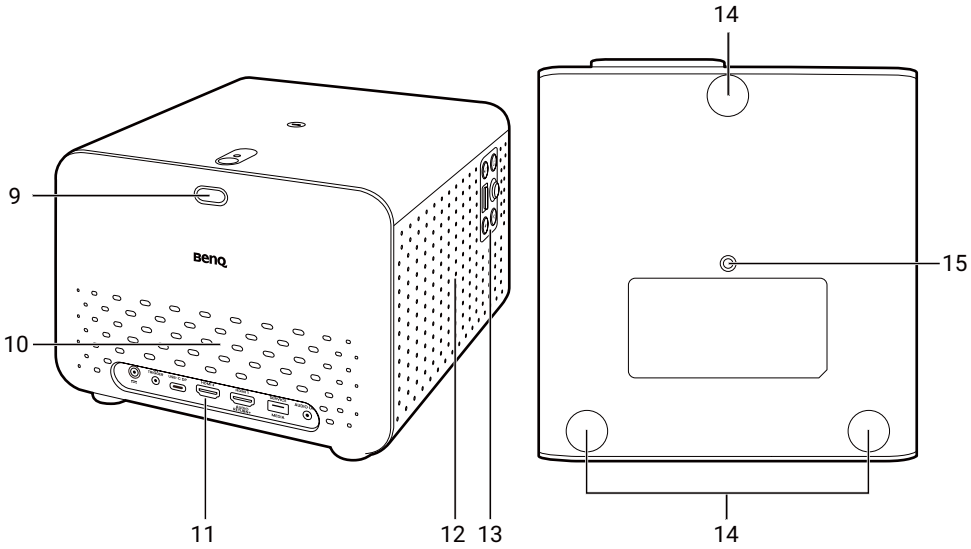
紹介

プロジェクター概要

概要

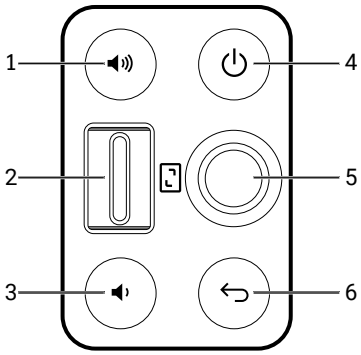


番号	説明
1.	三脚ネジ穴 詳細は、39 ページの「三脚の取り付け（別売り）」を参照してください。
2.	投写レンズ
3.	オートフォーカス用カメラ
4.	Time of Flight (ToF) センサー
5.	赤外線リモコンセンサー
6.	右スピーカーと通気口
7.	上部調整脚 詳細は、45 ページの「上部調整脚を使う」を参照してください。
8.	環境照明センサー (ALS)



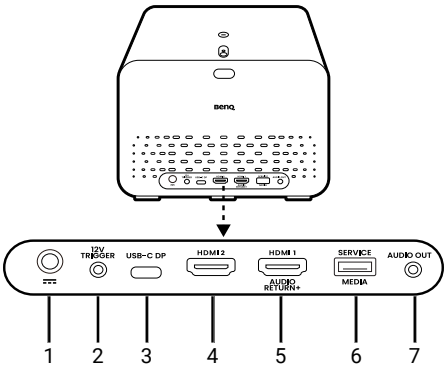
番号	説明
9.	上部調整脚ボタン 詳細は、45 ページの「上部調整脚を使う」を参照してください。
10.	通気口
11.	入出力端子 詳細は、次の情報をご覧ください。 ・ 20 ページの「入出力端子」 ・ 22 ページの「プロジェクターの接続」
12.	左スピーカーと通気口
13.	キーパッド 詳細は、19 ページの「キーパッド」を参照してください。
14.	プロジェクターの脚 / 天井取り付けネジ穴 詳細は、42 ページの「天井取り付け」を参照してください。 **注意** プロジェクターの脚を取り外してから天井取り付け用ネジ穴が見えます。
15.	三脚ネジ穴 詳細は、39 ページの「三脚の取り付け（別売り）」を参照してください。

キーパッド



番号	説明
1.	音量を上げるボタン
2.	ズームイン / ズームアウト切り替え • TK705i 向けの機械的 / デジタル的ズームイン / アウト • TK705STi 向けデジタルズームイン / アウト
3.	音量を下げるボタン
4.	電源ボタンと LED 詳細は、次の情報をご覧ください。 • 33 ページの「電源 LED インジケータ」 • 63 ページの「Bluetooth スピーカーモードの LED インジケータ」
5.	ジョイスティック
6.	戻る

入出力端子



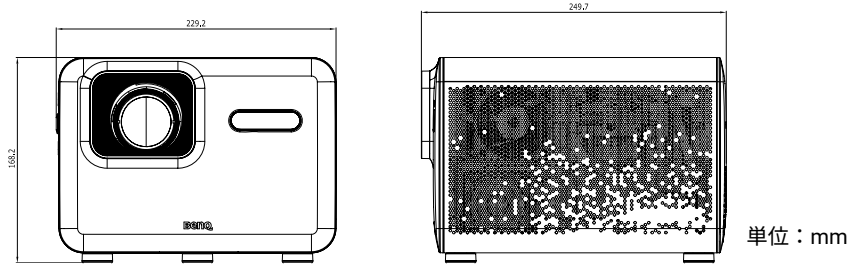
番号	説明
1.	電源アダプタポート
2.	12V/0.5A 電源トリガー出力ポート **注意** 12V/0.5A 電源トリガー出力は、12V/0.5A の電力を供給し、プロジェクターの電源がオンのとき、同時に電動式投写スクリーンを低減します。プロジェクターの電源がオフのときにはスクリーンもオフになるため、スクリーンから 12V の電力を削減できます。そのため、電力供給を上げます。12V/0.5A 電源トリガー出力ポートを介して投写スクリーンとプロジェクターを接続する方法については、電動式投写スクリーンのユーザーマニュアルをお読みください。
3.	USB Type-C ポート 詳細は、次の情報をご覧ください。 • 61 ページの「有線投写」 • 66 ページの「USB フラッシュドライブからマルチメディアファイルを再生する」 • 67 ページの「USB Type-C デバイスへの給電」
4.	HDMI 2 入力ポート 詳細は、61 ページの「有線投写」を参照してください。
5.	HDMI 1 入力ポート（Audio Return Channel+ 使用） 詳細は、61 ページの「有線投写」を参照してください。

番号	説明
6.	USB Type-A ポート（補修およびメディアリーダー用） 詳細は、次の情報をご覧ください。 • 38 ページの「高度なファームウェア アップグレード」 • 66 ページの「USB フラッシュドライブからマルチメディア ファイルを再生する」
7.	3.5mm オーディオ出力ジャック

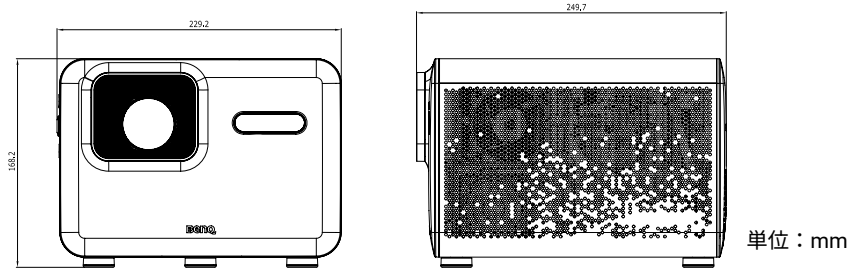
外形寸法

229.2（幅）x 249.7（奥行き）x 168.2（高さ）mm（9.02 x 9.83 x 6.62 インチ）

TK705i



TK705STi



プロジェクターの接続

プロジェクターをデバイスと接続して動画を投写するには、さまざまな方法があります。

無線接続

- スマートフォン、タブレット、ノートパソコン /PC（詳細は、58 ページの「無線投写（画面キャスティング）」を参照してください）
- Bluetooth デバイス（スピーカー、ヘッドフォン、マウス等）

無線接続を実行する前に、プロジェクターは接続しようとしている無線アクセスポイントの範囲に設置してください。

有線接続（USB Type-A ポート）

- USB Type-A フラッシュドライブ（詳細は、66 ページの「USB フラッシュドライブからマルチメディアファイルを再生する」を参照してください）

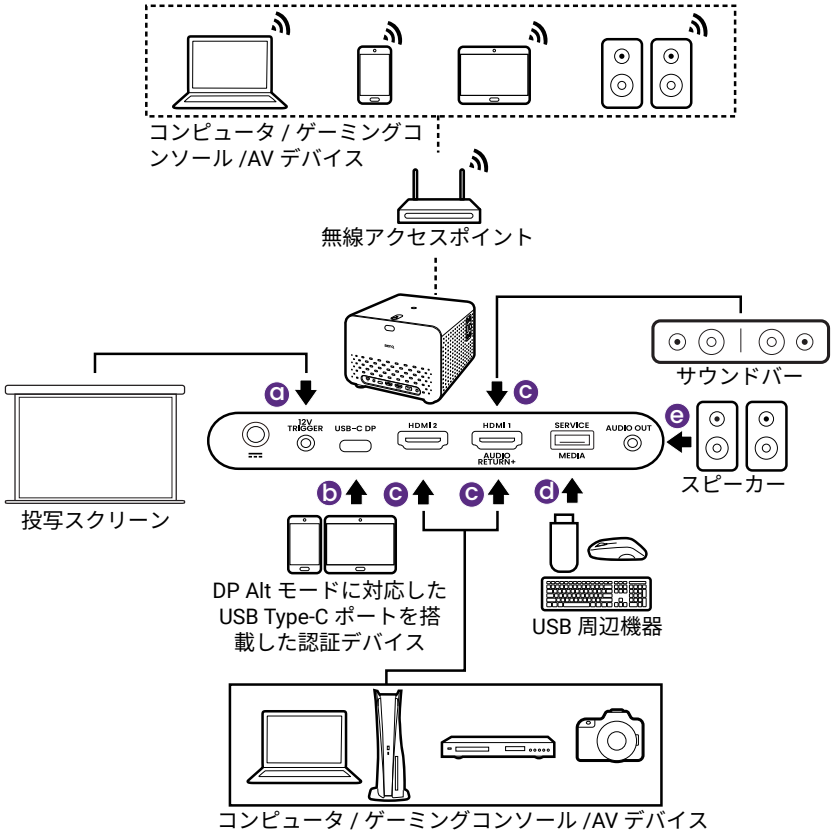
有線接続（HDMI ポート）

- A/V デバイス
- スマートフォン、タブレット、ノートパソコン /PC

有線接続（USB Type-C ポート）

- スマートフォン、タブレット、ノートパソコン /PC（詳細は、61 ページの「有線投写」を参照してください）
- USB Type-C フラッシュドライブ（詳細は、66 ページの「USB フラッシュドライブからマルチメディアファイルを再生する」を参照してください）

有線接続を行う前に、各ソースに適した機能を備えたケーブル（DP 代替モードや給電など）を使用し、しっかりと接続されていることを確認してください。USB-IF 認証の USB Type-C ケーブル / デバイスで接続すると互換性が高まります。

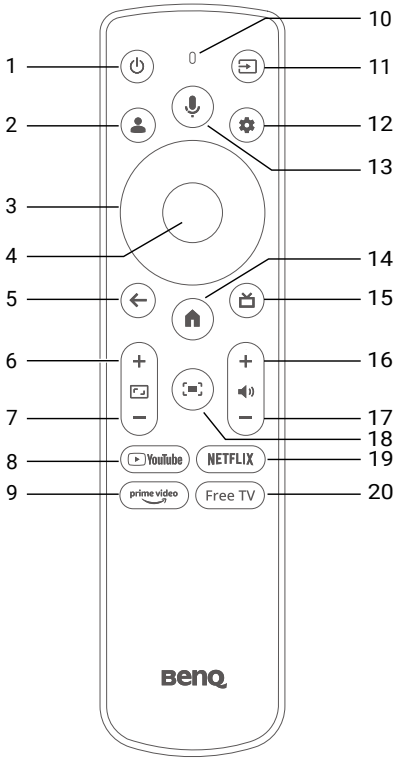


番号	説明	番号	説明
a.	電子投写するスクリーン操作のための 12V/0.5A トリガー	d.	メディアリーダーおよび周辺機器用の USB フラッシュドライブ
b.	DP Alt モードに対応した USB Type-C ケーブル	e.	オーディオケーブル
c.	HDMI ケーブル		

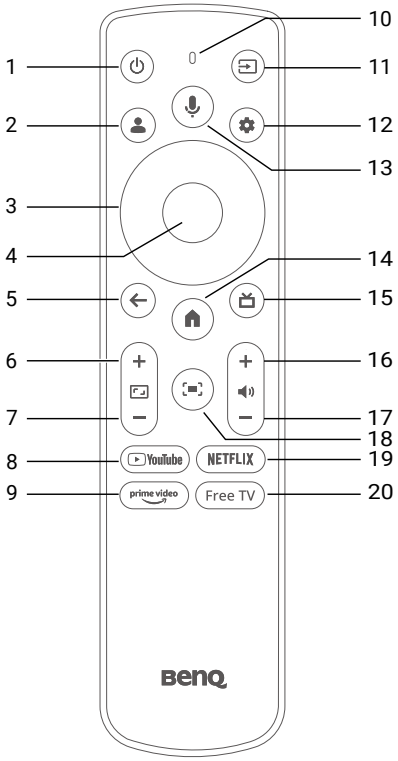
注意

- 上に示す接続図のケーブルは、プロジェクターに付属していません（詳細は、16 ページの「同梱物」を参照してください。）ケーブルはお近くのショップでお求めください。
- 接続図は参照用です。
- 正しいビデオ入力が選択されているにもかかわらず、電源をオンにしても選択したビデオ映像が表示されない場合は、ビデオ入力の電源がオンになっていて正しく動作しているかどうかを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることも確認してください。
- AUDIO OUT ジャックに接続すると内蔵スピーカーは無音になります。

リモコン



番号	説明
1.	電源
2.	プロファイル
3.	矢印キー
4.	OK
5.	戻る
6.	ズームイン
7.	ズームアウト
8.	YouTube
9.	Prime Video
10.	• マイク • Bluetooth ペアリングの状態を示す LED **注意** リモコンのボタンを押すと、リモコンとプロジェクターが Bluetooth でペアリングされていなければ LED が赤く点滅します。また、Bluetooth でプロジェクターとペアリングされていれば、青く点滅します。
11.	入力
12.	ダッシュボード
13.	音声検索
14.	TV ホーム画面
15.	HDMI 入力源



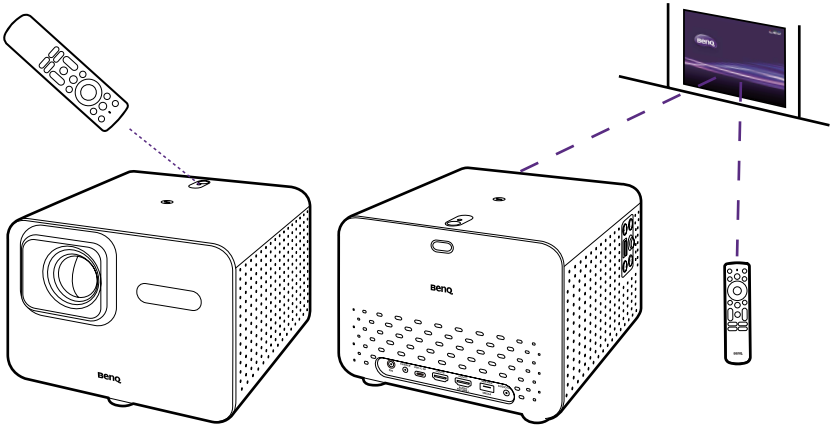
番号	説明
16.	音量を上げる
17.	音量を下げる
18.	 • 画面調整 • 自動シネマモード（詳細は 50 ページを参照してください） **注意** **ピクチャモード**が**自動シネマ**のとき、このボタンを押すとスクリーン調整機能および**自動シネマ**モード設定の両方が有効になります。**ピクチャモード**が**自動シネマ**ではないとき、このボタンを押すとスクリーン調整機能のみ有効になります。
19.	NETFLIX Netflix
20.	Free TV/Live TV **注意** Free TV/Live TV ストリーミングサービス アプリが使用できるかどうかは、地域ごとに変わります。

ヒント

リモコンの代わりとして、**SmartRemote for BenQ Projector** アプリが提供されています。モバイルデバイスにこのアプリをインストールして、新しいリモコンとしてお使いください。詳細は、37 ページの「便利な BenQ アプリにアクセスする」を参照してください。

リモコンの作動範囲

本機には本体の正面に赤外線センサーが 1 個、上部に別のセンサーがあり、左右に 30 度、上下に 20 度の角度で最大 8 メートル（~26 フィート）まで有効範囲です。セットアップウィザードでリモコンをペアリングする前（詳細は、32 ページの「電源を入れて初期設定を行う」を参照してください）は、リモコンは赤外線センサーに直接向けるか、壁やスクリーンに赤外線信号を反射させて操作する必要があります。リモコンとプロジェクターの赤外線センサーの間に障害物がないことを確認してください。



リモコンをプロジェクターにペアリングすると、8 メートル（26 フィート）以内であればどのような角度でもリモコンを使用することができます。

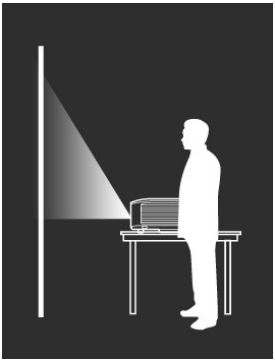
> **注意**
>
> リモコンの音声検索機能は、リモコンとプロジェクターをペアリングしなければご使用いただけません。詳細は、32 ページの「電源を入れて初期設定を行う」を参照してください。

インストール

設置場所の選択

プロジェクターの設置場所を決める際は、次のことに配慮してください：
- スクリーンのサイズと位置
- コンセントの位置
- プロジェクターとその他のデバイスの間の位置と距離
- プロジェクターとワイヤレス アクセスポイントの間の位置と距離

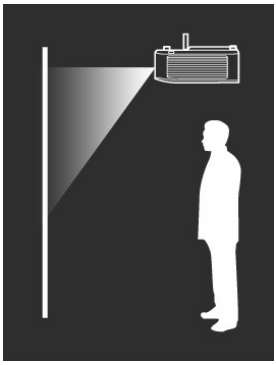
このプロジェクターは、⚙ > **すべての設定** > **プロジェクター** > **詳細設定** > **投影モード**を選択して、次の方法で設置できます。

• **自動** **正面**および**天井前面投写**のどちらかを選択すると、プロジェクターが上下逆さにインストールされているかどうかを検出し、シナリオを使って（正常または逆さま）自動的に投写モードが変わります。 投写位置に応じて、オーディオチャンネルも入れ替わります。 注意 **自動**は既定の投写モードです。	
• **正面** プロジェクターをスクリーンの正面に床面近くに設置します。 これが最も一般的な設定です。	

- **天井前面投写**
  プロジェクターをスクリーン正面の天井近くに昇降させます。
  投写位置に応じて、オーディオチャンネルも入れ替わります。

注意

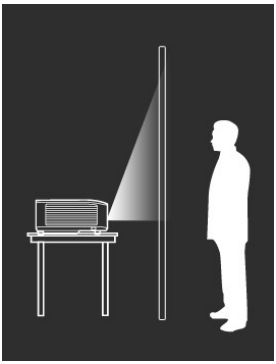
プロジェクターには、天井取り付け用コンポーネント / 装備はありません。天井に取り付けたい場合は、高い位置や棚（別売り）にプロジェクターを設置する必要があります。棚がプロジェクターの重量を支えられる強度があることを確認してください。プロジェクターが落下しないように、棚をしっかりと固定してください。



- **背面**
  プロジェクターをスクリーン背面、床面近くに設置します。
  投写位置に応じて、オーディオチャンネルも入れ替わります。

注意

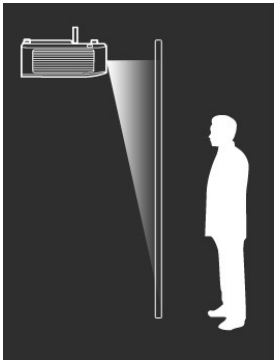
背面投写専用のスクリーンが必要です。



- **天井背面投写**
  プロジェクターをスクリーン後方の天井近くまで上げます。

注意

- 背面投写専用のスクリーンが必要です。
- プロジェクターには、天井取り付け用コンポーネント / 装備はありません。天井に取り付けたい場合は、高い位置や棚（別売り）にプロジェクターを設置する必要があります。棚がプロジェクターの重量を支えられる強度があることを確認してください。プロジェクターが落下しないように、棚をしっかりと固定してください。

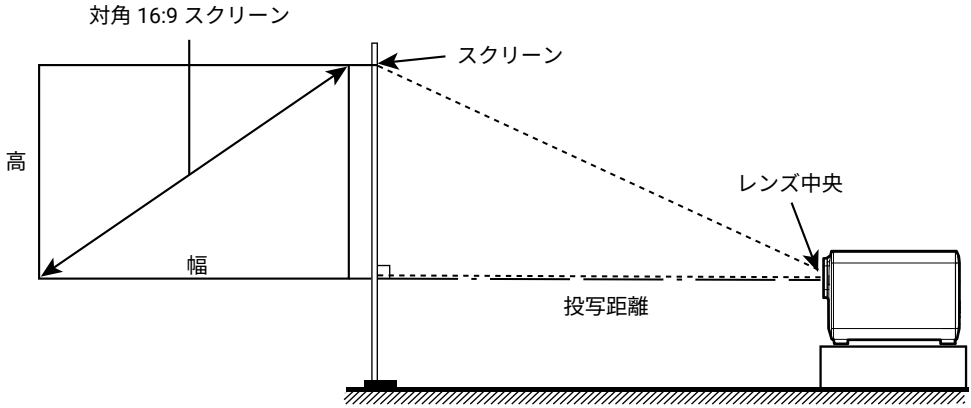


映像サイズの調整

投写距離、ズーム設定、ビデオフォーマットにより投写画面サイズは変わります。

投写サイズ

スクリーンのアスペクト比は 16:9、投写画像のアスペクト比は 16:9 です。



TK705i

スクリーンサイズ		幅 (mm)	高 (mm)	投写距離 (mm)	
インチ	mm			ワイド：TR1.00	望遠：TR1.30
50	1270	1107	623	1107	1439
60	1524	1328	747	1328	1727
70	1778	1550	872	1550	2015
80	2032	1771	996	1771	2303
90	2286	1992	1121	1992	2591
100	2540	2214	1245	2214	2878
110	2794	2435	1370	2435	3166
120	3048	2657	1494	2657	3454
130	3302	2878	1619	2878	3742
140	3556	3099	1743	3099	4030
150	3810	3321	1868	3321	4317

スクリーンサイズ		幅 (mm)	高 (mm)	投写距離 (mm)	
インチ	mm			ワイド：TR1.00	望遠：TR1.30
160	4064	3542	1992	3542	4605

TK705STi

スクリーンサイズ		幅 (mm)	高 (mm)	投写距離 (mm)
インチ	mm			
50	1270	1107	623	886
60	1524	1328	747	1063
70	1778	1550	872	1240
80	2032	1771	996	1417
90	2286	1992	1121	1594
100	2540	2214	1245	1772
110	2794	2435	1370	1949
120	3048	2657	1494	2126
130	3302	2878	1619	2303
140	3556	3099	1743	2480
150	3810	3321	1868	2657
160	4064	3542	1992	2834

たとえば、100 インチのスクリーンを使用する場合は、推奨する投写距離は 2214/2878 mm（TK705i の場合）または 1772 mm（TK75STi の場合）となります。
測定した投写距離が 1992/2591 mm（TK705i の場合）または 1594（TK705STi の場合）の場合は、投写スクリーンサイズは 90 インチになります。

注意

- 測定値はすべておよその値であり、実際のサイズにより変わります。
- プロジェクターを一定場所に固定する予定であれば、設置を行う前に実際にプロジェクターを使って投写サイズと距離を測っておかれるようお薦めします。このように準備しておくことによって、プロジェクターを最適な位置に固定することができます。

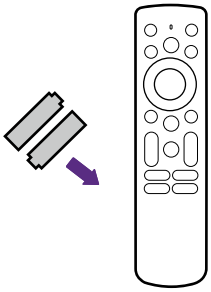
高地でプロジェクターを使用するには

海抜 1500 m ~ 2000 m、気温 0°C ~ 40°C の環境で本製品を使用する場合は、**高地モード**を使用されるようお勧めします。
高地モードを選択した場合は、システムの性能を維持するために冷却ファンが回転速度を速めるために操作ノイズが高くなる場合があります。
上記の場合を除き、それ以外の極限環境でプロジェクターを使用すると、プロジェクターが自動的にシャットダウンする場合があります。これはプロジェクターを過熱から保護するために施された機能です。
このような場合は、**高地モード**に切り替えてこのような現象を解決してみてください。⚙ > **すべての設定** > **プロジェクター** > **エネルギーと性能** > **高地モード**を選択します。
ただし、これはこのプロジェクターが極限状態でも操作可能であるということを保証するものではありません。

はじめに

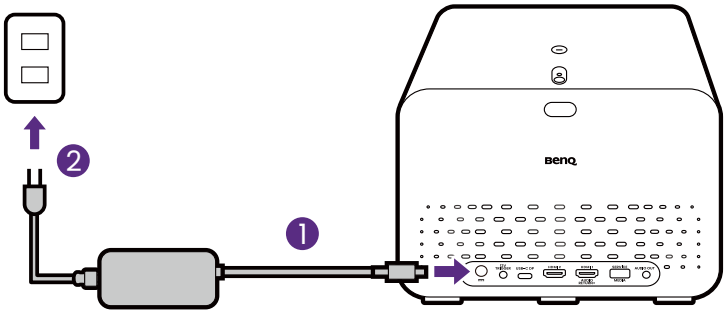
電源を入れて初期設定を行う

1. 27 ページの「設置場所の選択」の説明にしたがって、好きな位置と画像サイズを選択します。
2. リモコンに電池を挿入します。

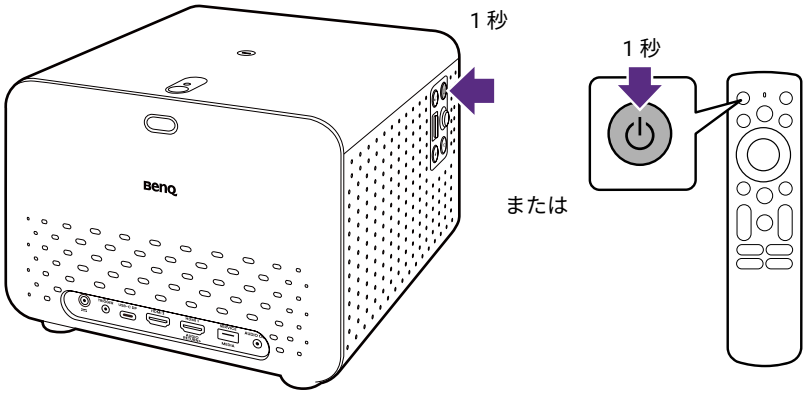


> 注意
> リモコンや電池は台所、浴室、サウナ、サンルーム、車内など高温多湿の場所に放置しないでください。

3. プロジェクターの電源を入れます。



4. プロジェクターの電源ボタン ⏻ を 1 秒以上押したままにするか、リモコンの電源ボタン ⏻ を押します。プロジェクターの電源を入れると電源 LED が緑色に点滅し、準備ができると緑色に点灯します。



注意

- 付属の電源アダプタを使ってプロジェクターに直接給電する場合は、感電や火災などの危険防止のために付属の電源ケーブルを使用してください。
- リモコンとプロジェクターをペアリングする前に、お使いのリモコンがプロジェクターの赤外線センサーの感知範囲内にあることを確認してください。詳細は、26 ページの「リモコンの作動範囲」を参照してください。

5. 画面の指示に従って初期設定を完了します。最初のステップでリモコンを正しくペアリングしてください。
6. 要求されたら **Google TV の設定**を選択します。Google TV™ はさまざまなアプリやサブスクリプションからムービー、番組、その他を 1 つにまとめて管理できるようにしてくれます。
7. 次のステップで、画面の下部分にある**代わりに TV を設定**を選択して Google TV にアクセスします。
8. 最新のファームウェアがリリースされているか確認してください。38 ページの「プロジェクターのアップデート」を参照してください。
9. シナリオを選択してください。
   - 52 ページの「ストリーミングビデオを見る」
   - 58 ページの「投写」
   - 62 ページの「プロジェクターを使って音楽を聴く」

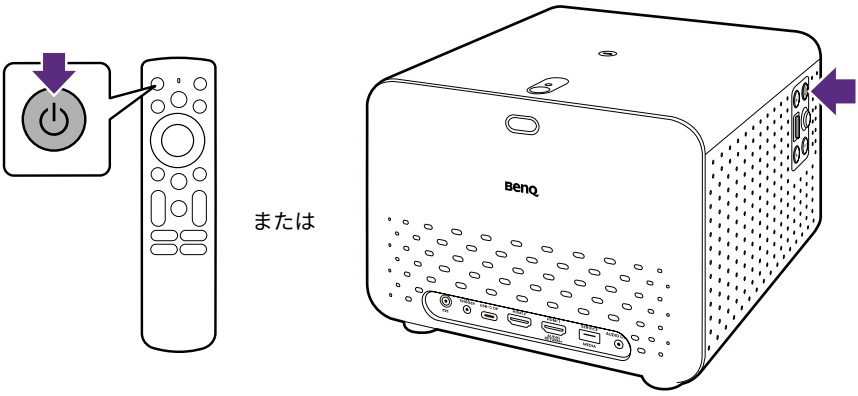
電源 LED インジケータ

LED の状態	電源状態
緑に点滅	正しくオンにします
緑色に点灯	電源が入り使用できます
オレンジ色に点滅	正しくオフにします

LED の状態	電源状態
オレンジ色に点灯	スタンバイモード / ネットワークスタンバイモード
赤く点滅	ファームウェアをダウンロード中
オレンジ / 青く点滅	オーディオ専用モード

電源設定と省電力のオプション

節電のために、20 分間無作動の状態が続いたり、4 時間観賞時間が続くと、デフォルトによりプロジェクターは自動的にオフになります（ネットワーク スタンバイモードに入るなど）。
ネットワークスタンバイモードを手動で有効にするには、リモコン / プロジェクターの電源キー ⏻ を 1 秒押します。



⚙ > **すべての設定** > **システム** > **電源とエネルギー** > **電源オフタイマー** > **無作動時**からネットワークスタンバイ設定を変更できます。この設定ではプロジェクターの電源はオフになりません。
その他の電源メニューをナビゲートするには、⚙ > **すべての設定** > **システム** > **電源とエネルギー**を選択します。ご使用になる環境に応じて設定してください。**電源とエネルギー**から選択できる、役に立ついくつかの設定があります。

項目	説明
電源オフタイマー	無作動状態または観賞していて一定時間が経過した後、プロジェクターが自動的にオフになるようにタイマーを設定します。
予約電源オン / オフ	• 一定時間が経過した後、プロジェクターが自動的にオン / オフになるようにタイマーを設定します。 • 使用時間が一定時間に達すると、プロジェクターが自動的にオフになるようにタイマーを設定します。

注意

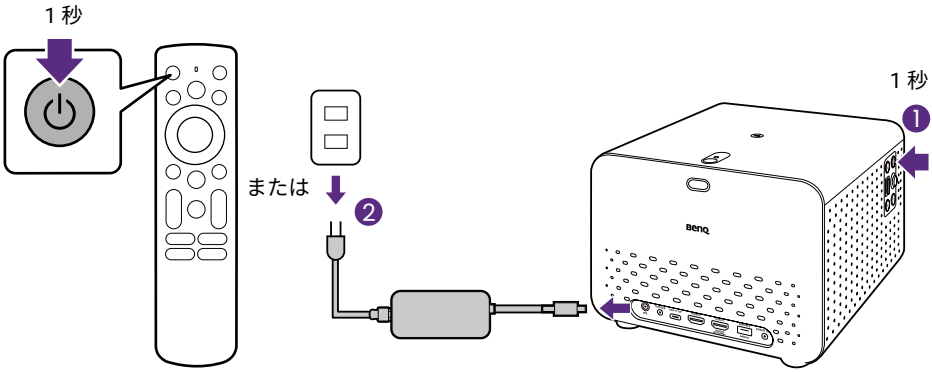
デフォルトにより、20 分以上無作動の状態が続くと本機は電源が切れます。スタンバイ時間を延長するには、⚙ > **すべての設定** > **システム** > **電源とエネルギー** > **電源オフタイマー** > **無作動時** > **常に使用しない**を選択し、次に 20 分以上のオプションを選択します。

プロジェクターをシャットダウンする

リモコン / プロジェクターの電源ボタン ⏻ を 1 秒間押したままにすると、プロジェクターはそのままシャットダウンします。
電源 LED がオレンジ色に点滅します。システムを冷却するためにファンは作動を続けます。
長期間プロジェクターをご使用にならない場合は、電源ケーブルを抜いておいてください。また、リモコンから電池を抜いておいてください。

注意

- プロジェクターを自動的にネットワークスタンバイモードに切り替えるには、先に**電源オフタイマー**を設定してください。詳細は、35 ページの「電源設定と省電力のオプション」を参照してください。
- 電源アダプタが接続されている場合は、システムは自動的にスタンバイモードになります。



便利な BenQ アプリにアクセスする

プロジェクターの機能性を高めるために、特定の BenQ アプリをインストールすることができます。

プロジェクターにダウンロードしたアプリ

- **BenQ Projector Assistant**：ヒント、FAQ、製品サポートが用意されています。
- **Screen Sharing for iOS**：iOS/macOS デバイスからワイヤレスでコンテンツをキャストできます。詳細は、58 ページの「iOS/macOS デバイスからの画面キャスティング」を参照してください。

プロジェクターにアプリをインストールするには、ホーム画面のトップにある**アプリ**タブを選択し、アプリを探します。

SmartRemote for BenQ Projector アプリをモバイルデバイスにダウンロードする

SmartRemote for BenQ Projector：基本機能（音量、方向キーを動かす、フォーカスなど）、ストリーミングサービス用のホットキーの詳しい設定、テキスト入力、タッチパッドを操作するためにモバイルデバイスとプロジェクターをペアリングして、よりスマートで便利に使用できるようにします。

GET IT ON Google Play

Download on the App Store

プロジェクターのアップデート

ユーザー体験を向上させるために、プロジェクターを最新バージョンのファームウェアに更新することをお勧めします。

オペレーティングシステムのアップデート

プロジェクターのオペレーティングシステムにアップデートがある場合は、Google TV ホーム画面に通知が表示されます。画面の指示に従ってアップデートを完了します。通知は、プロジェクターがワイヤレスネットワークに接続されている場合にのみホーム画面に表示されます。
または、⚙ > **すべての設定** > **システム** > **デバイス情報** > **システムアップデート**を選択して手動でアップデートを確認することもできます。

高度なファームウェア アップグレード

> USB フラッシュデバイスが必要な場合は、FAT32 ディスクフォーマットの USB Type-A コネクタをお使いください。

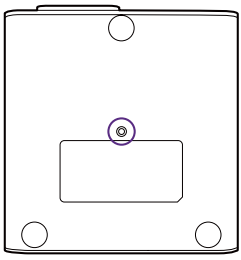
1. Support.BenQ.com にアクセスし、プロジェクターの新しいファームウェアファイルをダウンロードしてください（リリースされている場合）。アップグレードの手順は、ハートウェアのコンポーネントにより異なります。アップグレードのお知らせから更新内容と手順を確認することができます。参考までに最新のプロジェクターの取扱説明書もダウンロードをおすすめします。
2. 電源アダプタでプロジェクターに安定した電力を供給してください。プロジェクターの電源はオフにしないでください。
3. 高度なファームウェアのアップデート方法は変わります。詳しくは、ファームウェアの更新のお知らせをお読みください。

取り付け

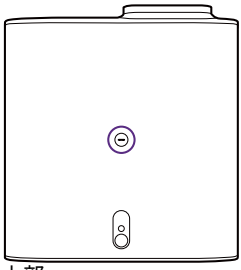
三脚の取り付け（別売り）

プロジェクターには、上、下に 2 つの三脚用ネジ穴が個別に用意されています。別途購入されたアクセサリが ¼" 標準ネジタイプに対応しており、少なくとも 4 kg の重量に耐えられるものであることを確認してください。

ネジの位置



底面
ネジタイプ：1/4 インチ
ネジ穴の長さ： 10mm

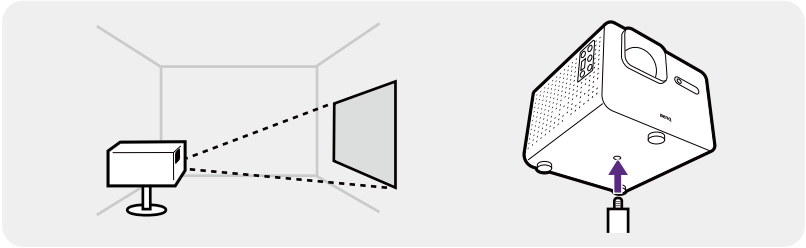


上部
ネジタイプ：1/4 インチ
ネジ穴の長さ：10mm

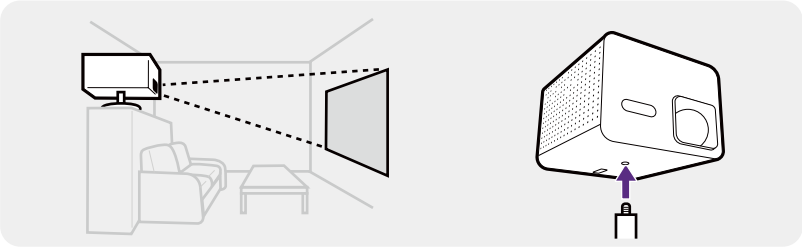
柔軟な設定

2 個のネジ穴があることで、部屋の状況に応じてプロジェクターを簡単に三脚（別売り）に取り付けることができます。

- 正面投写



- 逆さ投写



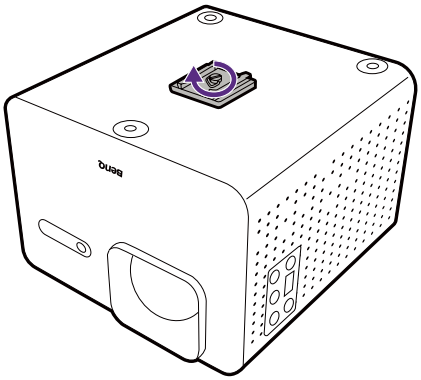
注意

上部調整脚を使用すると、三脚を使用せずに投写の高さを調整することができます。45 ページの「上部調整脚を使う」を参照してください。

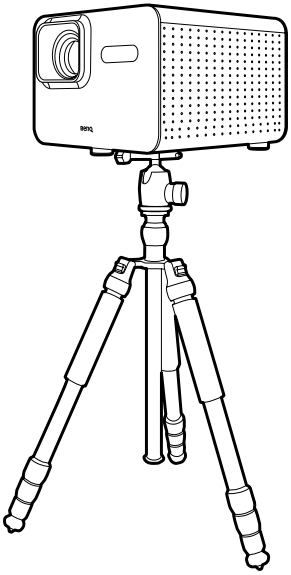
三脚プレートを使う

プロジェクターを三脚に取り付けるための穴です。

1. 三脚のクイックリリースプレートをプロジェクターの三脚用穴に設置し、プレートのネジを絞めます。

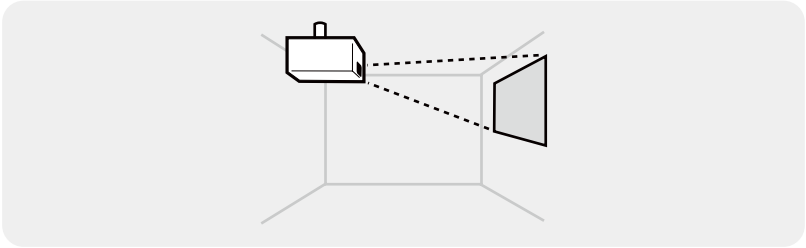


2. プロジェクターを三脚に装着します。



天井取り付け

本機には、従来の天井取り付け用に底面に設置ポイントが用意されています。

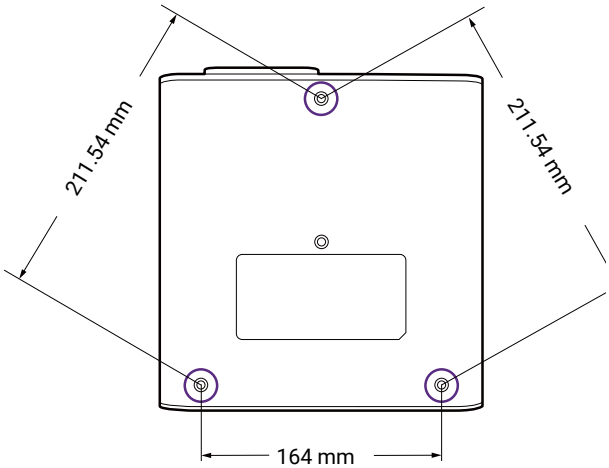


別途購入された天井取り付けキットが M4 ネジタイプに対応しており、少なくとも 4 kg の重量に耐えられるものであることを確認してください。

> **注意**
>
> 本機は BenQ CM00G3 ユニバーサル天井取り付けと互換性があります。

ネジの位置

プロジェクターの脚を取り外すと、底面から天井取り付け用ネジ穴が見えます。

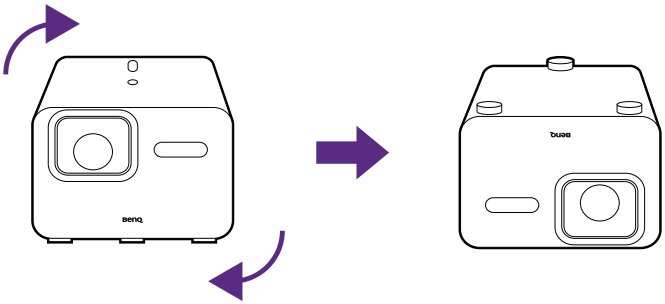


ネジタイプ：M4
ネジ穴の長さ：10mm

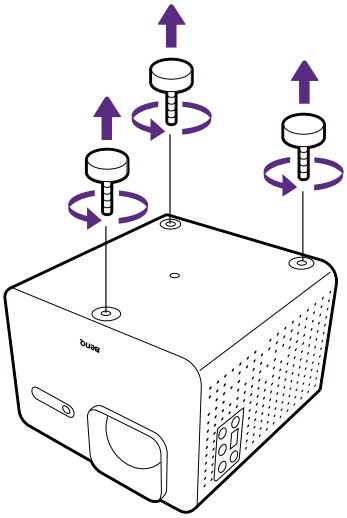
天井取り付けを行う

プロジェクターを天井に取り付けます：

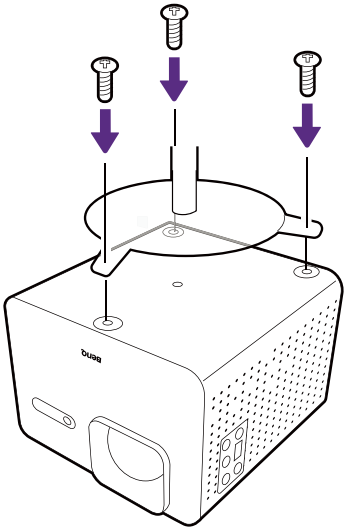
1. 平坦な場所にプロジェクターを逆さの状態に置きます。



2. プロジェクターの底部にある 3 つの調整脚を手で取り外すと、天井取り付け用ネジ穴が見えます。

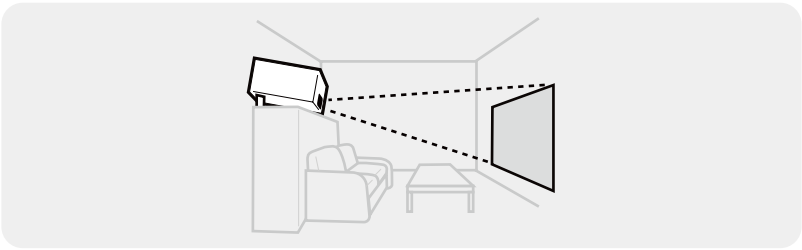


3. プロジェクターを天井マウントに設置して、天井取り付け用のネジで固定します。



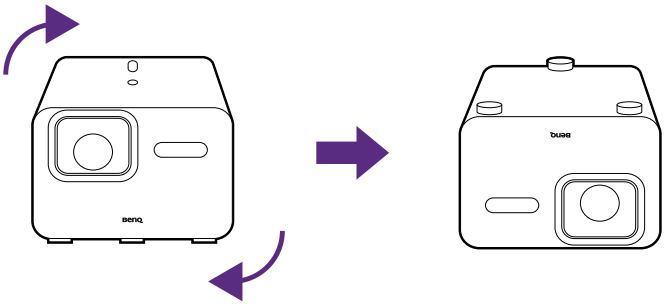
上部調整脚を使う

本機には、背面に取り外しボタンが付いている調整脚があります。この調整脚を使うことで、三脚なしでも投写の高さを調整することができます。

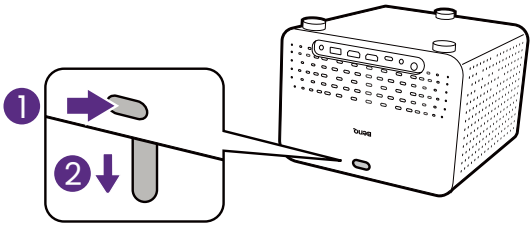


上部調整脚を使う：

1. 平坦な場所にプロジェクターを逆さの状態に置きます。



2. プロジェクターを少し傾けて、調整脚との間にスペースを作ります。その後、プロジェクターの背面にあるボタンを押して調整脚をスロットから引き出します。



注意

プロジェクターから調整脚を取り出すメカニズムは搭載されていません。プロジェクターが逆さまに設置されているとき、ボタンを押すとスロットから引き出せるようになっています。

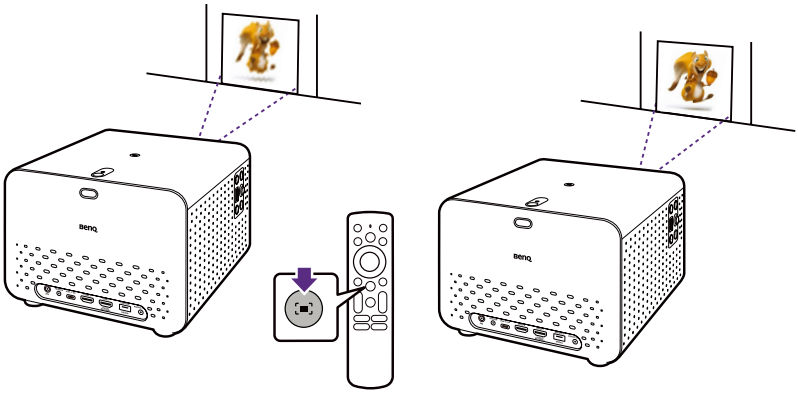
投写画像の調整

画像の明瞭さの微調整

画像を明瞭に表示するには、フォーカスを調整します。

- **リアルタイムのフォーカス調整と台形補正**：本プロジェクターは、デフォルトにより起動時にフォーカス調整と台形補正を自動的に行います。プロジェクターを動かしたときにも、この機能が自動的に作動します。自動フォーカス設定を確認 / 変更するには、⚙ > **すべての設定** > **プロジェクター** > **フォーカス** > **フォーカス設定**を選択します。プロジェクターのレンズからスクリーンまでの有効距離は、最長 1.3 ~ 4.9 メートルです。
- **ワンクリック スクリーン調整**：リモコンの [▬] ボタンを押すと、プロジェクターが画像を自動的にフォーカスして台形補正を行います。完璧に補正できるように、画面にキーストーンパターンが表示されます。

> 注意
>
> ピクチャモードが自動シネマのとき、リモコンの [▬] ボタンを押すとスクリーン調整機能および自動シネマモード設定の両方が有効になります。



手動フォーカス：⚙ > **すべての設定** > **プロジェクター** > **フォーカス** > **手動フォーカス**を選択します。上 / 下を押して調整を行います。フォーカスが完了したら、← を押して終了します。

注意

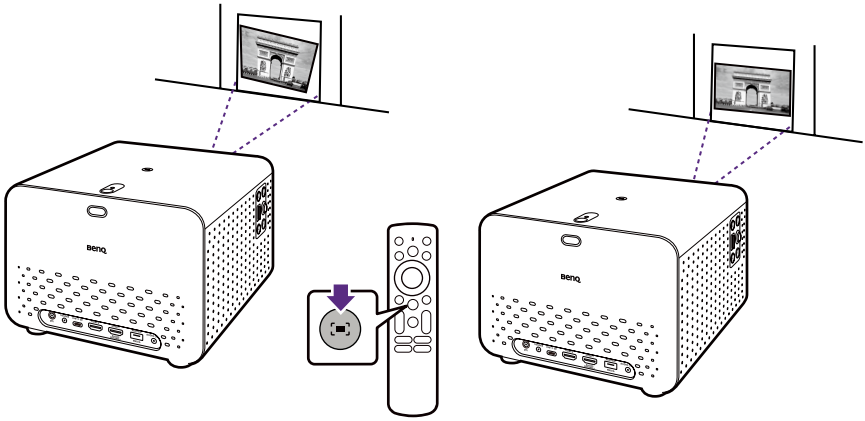
デフォルトにより、画像フォーカス調整を行うためにフォーカスパターンが表示されます。動画再生中に正しくフォーカスが調整されるように、フォーカスパターンを表示するようお薦めします。調整中にパターンを表示したくない場合は、⚙ > **すべての設定** > **プロジェクター** > **フォーカス** > **フォーカス設定** > **ディープフォーカス常時動作**から手動でパターンを無効にできます。

画像を画面にフィットさせる

台形補正

キーストーンとは、投写画像の上部 / 下部 / 右側 / 左側のいずれかが明らかに長くなってしまう状態のことです。プロジェクターのレンズ面がスクリーンに対して並行でないときに生じます。完璧に補正できるように、キーストーンパターンが画面に完全に表示されていることを確認してください。

- **リアルタイムのフォーカス調整と台形補正**：本プロジェクターは、デフォルトにより起動時にフォーカス調整と台形補正を自動的に行います。リアルタイムフォーカスおよび台形補正機能は、デフォルトでは有効に設定されています。そのため、プロジェクターに触れたり、動かしたりすると、プロジェクターが自動的にフォーカスを調整し、台形補正を行います。自動台形補正を確認 / 変更するには、⚙ > **すべての設定** > **プロジェクター** > **台形補正** > **台形補正設定**を選択します。自動台形補正の有効範囲は次のとおりです：
  - 垂直：± 30 度（1 本軸）
  - 水平：± 20 度（1 本軸）
  - レンズから壁までの距離：2 メートル



- **ワンクリック スクリーン調整**：リモコンの ボタンを押すと、プロジェクターが画像を自動的にフォーカスして台形補正を行います。完璧に補正できるように、画面にキーストーンパターンが表示されます。

  注意

  ピクチャモードが自動シネマのとき、リモコンの ボタンを押すとスクリーン調整機能および自動シネマモード設定の両方が有効になります。

- **手動キーストーン**：⚙ > **すべての設定** > **プロジェクター** > **台形補正** > **手動台形補正**を選択します。画面の指示に従って調整してください。調整が完了したら、← を押して変更内容を保存し、前のメニューに戻ります。手動台形補正の有効範囲は、次のとおりです：
  - 垂直：± 30 度（1 本軸）
  - 水平：± 20 度（1 本軸）
  - レンズから壁までの距離：2 メートル

注意

台形補正の方法は投写距離により異なり、それにより表示されたパターンも変わります。ただし、これにより補正結果が変わることはありません。

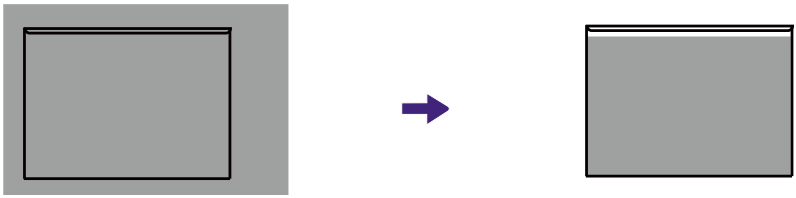
スクリーンに合わせる

プロジェクターが中心からずれて設置された場合、映像が歪みスクリーンからはみ出ることがあります。スクリーンに合わせる機能を使うことで、画面の 4 つの枠に合わせて画像を調整することで、画面に適切にフィットさせることができます。スクリーンに合わせる機能は、最低でもスクリーンの 2 辺がフォーカス / 台形補正カメラによって検出された場合にのみ機能します。

1. 投写映像がスクリーン全体に表示され、スクリーンよりも大きいことを確認してください。
2. ⚙ > **すべての設定** > **プロジェクター** > **詳細設定** > **自動スクリーンフィット**を選択します。
3. 画面の指示に処理に従ってください。完璧に補正できるように、画面にキーストーンパターンが表示されます。投写映像は自動的にスクリーンに合わされます。

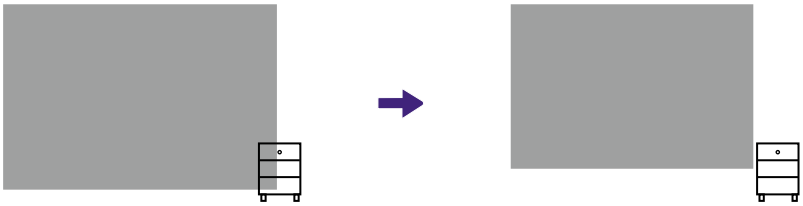
ヒント

リモコンの ボタンを押した時にこの機能を自動的に実行するには、⚙ > **すべての設定** > **プロジェクター** > **台形補正** > **台形補正設定** > **リモコンでスクリーンに自動的に合わせる**を選択します。スイッチをオンにします。



障害物を取り除く

プロジェクターが画面の陰になるものを検知し、それを避けるように投写画像を自動的にリサイズする機能です。
⚙ > **すべての設定** > **プロジェクター** > **詳細設定** > **障害物回避**を選択します。対象物が画面に写り込まないように、画面が自動的にリサイズされます。完璧に補正できるように、画面にキーストーンパターンが完全に表示されます。



注意

自動スクリーンフィットと**障害物回避**機能は同時に使用することはできません。補正結果はスクリーン検出を基にしています。

投写サイズおよび位置調整（デジタルズームと画像再配置）

デジタルズームと位置調整機能を使用すると、簡単に投写画像をリサイズしたり、シフトさせたりしてスペースに合わせることができます。

1. 小さいスペースに合わせて画像をリサイズするには、リモコンのデジタルズーム イン / アウトキーを使用します。最初の場所に投写した画像が最大サイズになります。
2. OK を押して画像の位置調整機能に切り替えます。リモコンの矢印キーを使って画像を動かします。画面の指示にしたがって、デジタルズームと画像の位置調整を切り替えます。
3. ← を押して変更内容を保存し、終了します。

ヒント

メニューにアクセスするには、⚙ > **すべての設定** > **プロジェクター** > **台形補正** > **画像変換** > **画像位置調整**を選択します。

画面の輝度を調整する

⚙ > **すべての設定** > **プロジェクター** > **エネルギーと性能** > **光源モード**を選択します。

項目	説明
標準	光源を完全に明るくします。
エコ	明るさを下げて、光源を長く使えるようにします。また、ファンのノイズも小さくなります。
カスタム	10 段階の輝度レベルが用意されていますので、現在の最大輝度を適切なレベルまで下げることができます。

スマートアイプロテクションを有効にする

投写レンズの前 2 m の範囲に物体 / 人が検出された場合、スクリーンの輝度が暗くなります。
この機能を自動的に有効にするには、⚙ > **すべての設定** > **プロジェクター** > **詳細設定** > **スマートアイプロテクション**を選択します。

自動シネマモードで画質を最適化する

自動シネマモードは、環境における変化（環境照明、プロジェクターの位置、スクリーンまでの距離、画像を投写する壁の色など）を基にリアルタイムで彩度、輝度、コントラスト、シャープネスなどのパラメータを調整して画質を自動的に最適化します。
自動シネマモードは、プロジェクターを動かしたり、リモコンの画面調整ボタンを押したりしたときにオンにできます。このような状況のとき、プロジェクターは校正パターンを投写して、前述の画像パラメータ設定を自動的に最適化します。自動シネマモードは、TK705i の場合は投写距離が 1.2 メートルから 4.0 メートルの範囲で使用できます。TK705STi の場合は、1.0 メートルから 3.0 メートルの範囲で使用できます。
⚙ > **すべての設定** > **ディスプレイとサウンド** > **ディスプレイ** > **ピクチャモード**を選択し、画像モードに切り替えます。

入力源の変更

デフォルトにより、電源を入れるとプロジェクターは Google TV ホームスクリーンを開きます。
プロジェクターの入力ポートにデバイスを接続します。リモコンの入力キー を押して入力メニューから入力源を選択します。
または、リモコンのホームボタン を押すと、いつでも Google TV ホーム画面に戻ることができます。

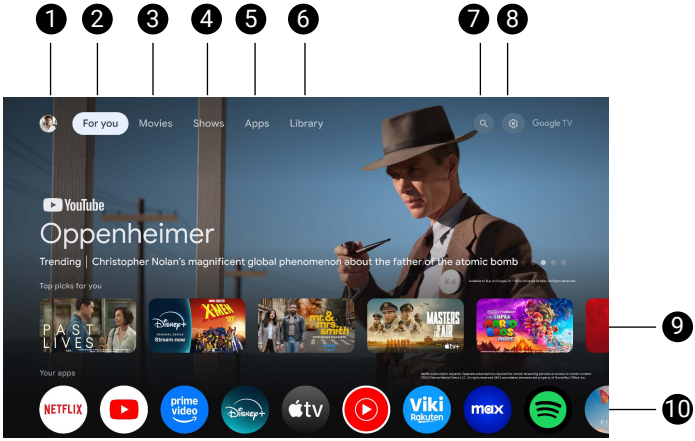
> **注意**
>
> 1 つの USB フラッシュドライブは入力源とはみなされません。USB フラッシュドライブからファイルを再生するには、66 ページの「USB フラッシュドライブからマルチメディアファイルを再生する」をお読みください。

ストリーミングビデオを見る

プロジェクターがワイヤレスネットワークに接続され、Google アカウントにサインインしていることを確認してください。

Google TV ホーム画面

初めて起動するとき、またはリモコンの キーを押すと、Google TV のホーム画面が表示されます。



注意

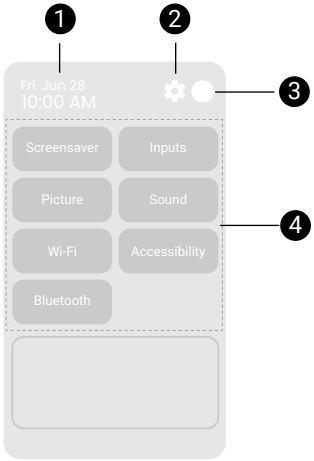
実際のスクリーンと機能は、国 / 地域によって異なります。

番号	項目	説明
❶	プロファイル	サインインしたプロファイルです。
❷	おすすめ	ホーム画面が開きます。
❸	映画	さまざまな映画をブラウズできます。
❹	番組	さまざまなショーをブラウズできます。
❺	アプリ	新しいアプリをダウンロードするか、インストールしたアプリにアクセスします。
❻	ライブラリ	個人化したウォッチリストにアクセスします。
❼	検索	検索するテキストを入力できます。

番号	項目	説明
❽	ダッシュボード	設定メニューや特定の機能（詳細は 53 ページを参照してください）にクイックアクセスできます。
❾	おすすめ	個人化されたおすすめの中から映画やショーを見つけることができます。
❿	あなたのアプリ	インストールされたアプリを参照します。

ダッシュボード

特定の機能や設定にクイックアクセスするには、サイドパネルのダッシュボードを使用できます。



番号	項目	説明
❶	システム時間	現在の時間を表示します。
❷	**設定**	設定メニューが開きます。
❸	プロファイル	別のユーザープロファイルに切り替えます。
❹	デフォルトの頻繁に使用するメニュー	頻繁に使用するメニュー / 機能にアクセスします。

注意

実際のスクリーンはネットワークの有無と、Google TV バージョンにより変わります。仕様は予告なしに変更されることがあります。

ビデオストリーミングに適した画像モードを選択する

ピクチャモードでは、さまざまなシーンに対応した画像モードを用意しています。⚙ > **すべての設定** > **ディスプレイとサウンド** > **ディスプレイ** > **ピクチャモード**を選択してオプションを選択します。通常、映画鑑賞には**省エネ**がおすすめです。
設定できるオプションは、コンテンツにより異なります。HDR/HLG/HDR10+ コンテンツがある場合は、**ピクチャ**の一部のオプションで HDR/HLG/HDR10+ コンテンツがサポートされます。
標準の画像モードと比べて、HDR モードは明るさや色のコントラストがより高く、ハイダイナミックレンジ効果をより鮮明に表現します。

オプション	説明
省エネ	低い輝度レベルで忠実な色再現と深いコントラストで、比較的明るい部屋でムービーを再生するのに適しています。
自動シネマ / HDR 自動シネマ	壁の色、環境照明、スクリーンのサイズによって、色を自動的に設定します。このモードは、薄暗い環境で輝度レベルを下げて、忠実な色と深いコントラストを再現するためムービーを楽しむのに適しています。このモードは、豊かな彩度と細かく調整されたシャープネスを実現するため、やや暗い部屋でストリーミング TV を楽しむのに適しています。詳細は、50 ページの「自動シネマモードで画質を最適化する」を参照してください。
RPG / FPS / HDR RPG / HDR FPS	ロールプレイゲームやファーストパーソン シューターゲームを楽しむときに適した画像設定です。このモードは、敵が隠れられないように暗いシーンの詳細を向上させます。 注意 このモードでは、ノイズリダクションは使用できません。
ユーザー / HDR ユーザー / HDR10+ ユーザー / HLG ユーザー	カスタマイズ設定にアクセスします。

オプション	説明
高輝度	画像の輝度を最大限明るくします。このモードは、プロジェクターでも最高に明るいモードです。
HDR10	輝度と色のコントラストを高める高ダイナミックレンジ効果を実現します。
HDR10+	HDR Blu-ray ムービー向けの輝度と色のコントラストを高めたハイダイナミック レンジ効果を実現します。
HLG	信号の最高値を超えた輝度を持つアルゴリズム曲線を追加することで、ハイブリッドログガンマ効果を実現します。

ビデオストリーミングに適したサウンドモードを選択する

一般的には、**サウンド モード**からシーンに応じたサウンドモードを選択することができます。⚙ > **すべての設定** > **ディスプレイとサウンド** > **サウンド** > **サウンド モード**を選択してオプションを選択します。通常、映画鑑賞には**シネマ**がおすすめです。

オプション	説明
シネマ	このモードは、BGM と映画の効果音のバランスを取り、特にボーカルの台詞をクリアなウィスパーボイスに、銃声や銃撃戦などの爆発的なアクションシーンをステレオ低音効果で強化します。
音楽	このモードは、ポップス、ロック、ジャズなど、さまざまなジャンルのコンサートやライブ会場において、楽器の音色、シンフォニーのリズム、歌手のソロを存分に表現するために、低・中・高のトータルバランスを重視しています。
ゲーム	このモードは、アクションゲームや格闘ゲームで敵が隠れられないように、銃声や足音などの方向性を認識できるよう、明確な位置と空間のダイナミックさを強調しています。

オプション	説明
スポーツ	このモードでは、スポーツ中継や軽めの娯楽番組などを豊かな臨場感で楽しむことができます。解説者の声は明瞭に、客席からの高い歓声が聞き取りやすくなります。

ゲーム体験を向上させる

ゲーム体験を向上できるように、ゲームに合わせて選択できる画像モードとサウンドモードが用意されています。一般的に、**RPG** / **FPS** / **HDR RPG** / **HDR FPS**（画像モード）およびゲーム（サウンドモード）はゲームを楽しむときにお薦めします。

レイテンシー自動低減モード (ALLM)

レイテンシー自動低減モード (ALLM) は、入力ラグを極力低減して、スムーズなゲームプレイを体験するのに適しています。ゲームコンソール、PC、ノートパソコン、その他のデバイスからゲーム信号が検出されると、自動的にレイテンシー低減モードに切り替わります。低遅延モードでは、プロジェクターがゲーム信号が終了したことを検出すると、標準のディスプレイモードに戻ります。

ALLM は入力源が HDMI の場合、および画像モードが **RPG** / **FPS** / **HDR RPG** / **HDR FPS** に設定されているときにのみ有効です。

ALLM はデフォルトで無効になっています。この機能を有効にするには、⚙ > **すべての設定** > **ディスプレイとサウンド** > **ディスプレイ** > **HDMI ディスプレイ設定** > **ALLM** を選択します。

ゲームブースト

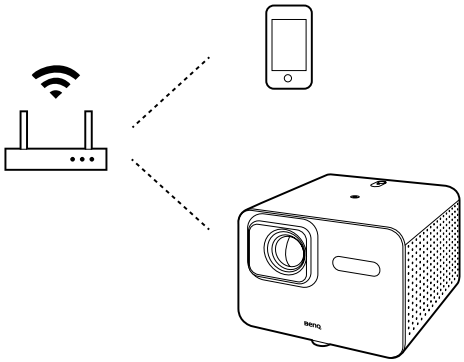
画像モードが **RPG** / **FPS** / **HDR RPG** / **HDR FPS** にすでに設定されており、より感度の高いゲーム体験をしたい場合は、⚙ > **すべての設定** > **ディスプレイとサウンド** > **ディスプレイ** > **HDMI ディスプレイ設定** > **ゲームモード**を選択して、**ゲームブースト**を有効にします。

> 注意
>
> - **ゲームブースト**は、**ピクチャモード**が **RPG** / **FPS** / **HDR RPG** / **HDR FPS** に設定されており、入力源が HDMI または USB Type-C に設定されている場合にのみ有効です。
> - **ゲームブースト**を有効にすると、台形補正の値は自動的にゼロに設定されます。そのため、**ゲームブースト**を有効にする前に、プロジェクターがスクリーンに対して平行に設置されていることを確認してください。
> - **RPG** / **FPS** / **HDR RPG** / **HDR FPS** モードで台形補正機能を使用するには、**すべての設定** > **ディスプレイとサウンド** > **ディスプレイ** > **上級者向け設定** > **HDMI ディスプレイ設定** > **ゲームモード**を選択して、**ゲームブースト**を無効にします。

投写

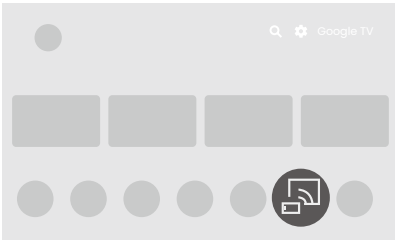
無線投写（画面キャスティング）

モバイルデバイス、タブレット、コンピュータからプロジェクターに画面キャスティングするには、両方のデバイスが同じワイヤレスネットワークに接続されていることを確認してください。
モバイルデバイスによって、手順とオプションが異なります。指示に従ってください。



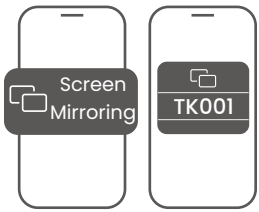
iOS/macOS デバイスからの画面キャスティング

1. > **すべての設定** > **プロジェクター** > **詳細設定** > **Screen Sharing for iOS** を選択して、**Screen Sharing for iOS** アプリをインストールし、起動してください。
2. プロジェクターの Google TV ホーム画面から**アプリ**を開き、**Screen Sharing for iOS** アプリを起動します。



3. 画面の指示に従って、アクセス権を取得してください。

4. モバイルデバイスとプロジェクターが同じワイヤレスネットワークに接続されていることを確認してください。
5. iOS/macOS デバイスから画面のミラー機能を有効にします。デバイスリストから **TK001**（プロジェクターの既定のデバイス名）を選択します。名前を変更した場合は、デバイスリストから新しい名前を探してください。



ヒント

一部のストリーミングアプリは縦画面しか使用できず、横方向投写では画面全体を投写できない場合があります。iOS/MacOS デバイスをキャストするには、左 / 右キーを押すとスクリーンを回転させることができます。

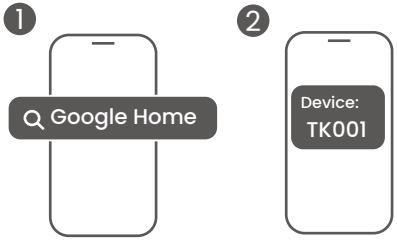
Google Cast™ で Android™ OS デバイスから画面をキャストする

1. モバイルデバイスとプロジェクターが同じワイヤレスネットワークに接続されていることを確認してください。
2. モバイルデバイスで Google Cast が有効のアプリを開きます。
3. モバイルデバイスからプロジェクターにキャストしたいコンテンツを選択します。
4. モバイルデバイスでキャストアイコン ( ) をタップして、キャストしたいデバイスとして **TK001**（プロジェクターの既定の名前）を選択します。

Google Home で Android™ OS デバイスから画面をキャストする

1. モバイルデバイスとプロジェクターが同じワイヤレスネットワークに接続されていることを確認してください。
2. モバイルデバイスで **Google Play** を開きます。**Google Home** アプリをインストールして起動します。
3. 画面の指示に処理に従ってください。キャストデバイスとして **TK001**（プロジェクターの既定の名前）を **Google Home** から選択し、モバ

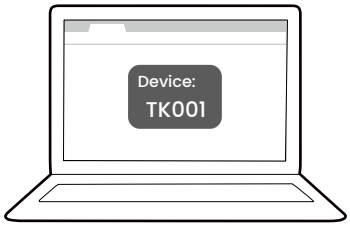
イルデバイスから画面のミラー化機能を有効にします。名前を変更した場合は、デバイスリストから新しい名前を探してください。



Google Cast™ で PC デバイスから画面をキャストする

1. コンピュータとプロジェクターが同じワイヤレスネットワークに接続されていることを確認してください。
2. コンピュータのブラウザ（Chrome など）から画面のミラー機能（キャスト）を有効にします。名前と画面のミラー機能にアクセスできるかどうかは、プログラムにより異なります。プロジェクターの名前は、デフォルトで **TK001** となっています。名前を変更した場合は、デバイスリストから新しい名前を探してください。

Windows



有線投写

HDMI または認証された USB Type-C 3.0 ケーブルを使用することで、HDMI または DP Alt モード機能を搭載したデバイスを接続することができ、動画や画像をプロジェクターに投写できます。

> 注意
>
> USB Type-C ポートを備えたすべてのデバイスが DP Alt Mode に対応しているわけではありません。デバイスの仕様書をご確認ください。

1. 認証されたケーブルを使って、デバイスをプロジェクターの HDMI または USB Type-C ポートに接続します。
2. 入力キー を押して、入力メニューで相当するポートを選択します。
3. 入力メニューを使用するか、ホームボタン を押すと、Google TV ホーム画面に戻ります。
4. デバイスを接続したままにするか、映像を再度投写したい場合は、入力ボタン を押して、入力メニューで相当するポートを選択します。

> 注意
>
> - 一部のコンピュータにはオーディオを送信しない HDMI ポートが装備されています。このような場合は、別途オーディオケーブルをプロジェクターに接続する必要があります。
> - 多くのノートパソコンでは、プロジェクターを接続すると外付けビデオポートはオンになりません。通常 Fn + F3 や CRT/LCD キーなどを使用すると、外部表示のオン / オフを切り替えることができます。ノートパソコン上で CRT/LCD と記された機能キーか、モニターの記号が表示された機能キーの位置を確認してください。Fn と記号が記された機能キーを同時に押します。ノートパソコンのキーの組み合わせについては、ノートパソコンの説明書をお読みください。

> ヒント
>
> 本機は USB Type-C ポートからビデオ / オーディオ転送や配電機能を備えています。この機能を活用すると、他のドックを使用しなくてもゲーム中にゲーミングコンソール（USB Type-C ビデオ出力）を直接充電することができます。詳細は、67 ページの「USB Type-C デバイスへの給電」を参照してください。

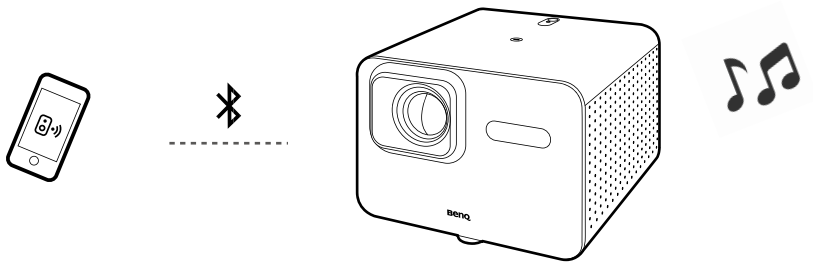
プロジェクターを使って音楽を聴く

内蔵スピーカーを使うと、投写スクリーンは写さずに、プロジェクターで音楽を楽しむことができます。本機は普通のスピーカーとして、またはワイヤレス スピーカーとしてお使いいただけます。

プロジェクターを Bluetooth スピーカーとして使用する

入力源が Google TV の場合にのみ使用できます。

1. ⚙ > **すべての設定** > **プロジェクター** > **Bluetooth スピーカーモード**を選択し、プロジェクターの Bluetooth 機能を有効にします。
2. デバイスの Bluetooth 機能も有効にします。ペアリングするデバイスリストから **TK001**（プロジェクターの既定の名前）を選択します。名前を変更した場合は、デバイスリストから新しい名前を探してください。
3. ペアリングに成功したら、デバイスからプロジェクターにオーディオを出力できます。
4. プロジェクターから音楽再生を停止して、Bluetooth 接続を解除するには、キーをどれでも押して、リモコンの戻るボタン ← を押したままにします。



注意

プロジェクターは、直前にペアリングされていたデバイスとの自動再接続に対応しません。ペアリングしたデバイスに再接続する、または別のデバイスと接続するには、上記の手順を繰り返してください。

Bluetooth スピーカーモードの LED インジケータ

注意

電源ボタンには Bluetooth スピーカーモードの LED インジケータが付いていますが、電源 LED インジケータとしても機能します。電源ボタンの位置については、19 ページの「キーパッド」をご覧ください。

シナリオ	LED の状態	Bluetooth の状態
Bluetooth スピーカーモードに切り替えたり、Bluetooth デバイスとペアリングしたり、接続したりしています	青く点滅	Bluetooth スピーカーモードが有効です
		Bluetooth デバイスがペアリングされ、接続されるのを待っています
		Bluetooth デバイスがペアリングおよび接続中です
	青く点灯	Bluetooth デバイスの接続に成功しています
Bluetooth デバイスを接続解除し、ペアリングを解除しています	青く点滅	Bluetooth デバイスがペアリング解除され、接続解除されています
		Bluetooth デバイスが接続解除されました
Bluetooth スピーカーモードが無効化されます	オフ	オフ

プロジェクターを外付け Bluetooth スピーカー / ヘッドフォンに接続する

入力源が Google TV の場合にのみ使用できます。

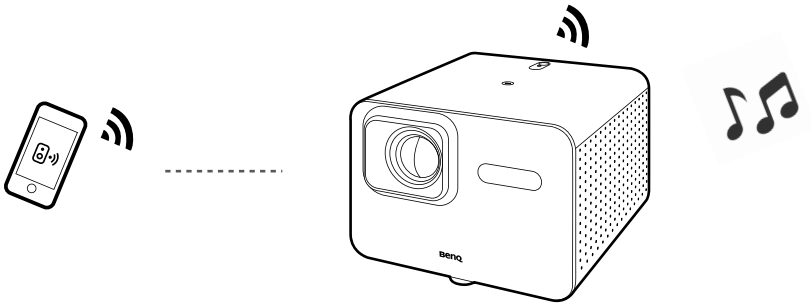
1. プロジェクターで ⚙ > **すべての設定** > **リモコンとアクセサリ** > **アクセサリのペア設定**を選択します。
2. スピーカーまたはヘッドフォンの Bluetooth ペアリングモードを有効にします。
3. デバイスリストからスピーカーまたはヘッドフォンを選択します。
4. **ペアリング**を選択します。
5. プロジェクターとスピーカー / ヘッドフォンを接続した後は、プロジェクターからスピーカー / ヘッドフォンへオーディオを出力できるようになります。

注意

プロジェクターは、直前にペアリングされていたデバイスとの自動再接続に対応しません。ペアリングしたデバイスに再接続する、または別のデバイスと接続するには、上記の手順を繰り返してください。

プロジェクターをワイヤレススピーカーとして使用する

1. プロジェクターの電源を入れる（32 ページの「電源を入れて初期設定を行う」を参照してください）。
2. モバイルデバイスとプロジェクターが同じワイヤレスネットワークに接続されていることを確認してください。
3. 58 ページの「無線投写（画面キャスティング）」の手順にしたがって、モバイルデバイスからプロジェクターにオーディオをキャストします。
4. プロジェクターで ⚙ > **すべての設定** > **ディスプレイとサウンド** > **オーディオのみモード**を選択すると、スクリーンがオフになります。詳細は、「音楽を再生中に映像を非表示（消画）にする」を参照してください。
5. モバイルデバイスでミュージックアプリを起動し、「無線投写（画面キャスティング）」の指示にしたがって Google Cast からキャスト機能を使用します。キャストデバイスとして **TK001** を検出し、音楽のストリーミングをお楽しみください。



音楽を再生中に映像を非表示（消画）にする

投写スクリーンは写さずに、プロジェクターで音楽を楽しむことができます。プロジェクターで ⚙ > **すべての設定 > ディスプレイとサウンド** > **オーディオのみモード**を選択すると、音楽は再生したままでスクリーンがオフになります。
投写画面がなくても音量調節キーを使うと音量を調整できます。
再生を中止したり、他の操作をするには、リモコンのキーをどれでも押すと（電源、音量調節キー以外）投写画面が表示されます。

USB フラッシュドライブからマルチメディアファイルを再生する

メディアリーダー アプリが必要です。USB フラッシュドライブからファイルにアクセスする前にアプリをインストールしておいてください。

USB フラッシュドライブに保存されているメディアファイルを再生するには、正しく接続を行い設定する必要があります。

1. USB フラッシュドライブをプロジェクターの USB Type-A / USB Type-C ポートに接続します。
2. USB ストレージデバイスが検出されると指示が表示されます。画面の指示に処理に従ってください。ホーム画面で**アプリ** > 「メディアプレーヤー」を選択し、アプリをダウンロードします。
3. プロジェクターでメディアリーダーアプリを起動して、USB フラッシュドライブに保存されているマルチメディアファイルを探します。再生可能なファイル形式は、アプリによって異なります。

注意

対応する USB フラッシュデバイスのフォーマット：NTFS、FAT、FAT32。

USB Type-C デバイスへの給電

プロジェクターが付属の電源アダプタで給電されている場合にのみ使用できます。

給電機能を活用すると、プロジェクターは接続した USB-IF 認証の USB Type-C デバイスに給電することができます。

サポートされる USB Type-C 給電：

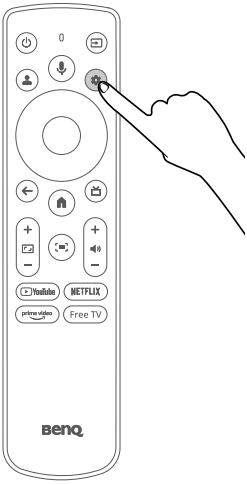
- 5V/2A
- 9V/2A
- 12V/1.5A
- 15V/2A

USB Type-C 給電についてのご注意

- この情報は標準の試験条件に基づいており、参照用として提供されるものです。ユーザー環境はそれぞれ異なるため、互換性は必ずしも保証されるものではありません。別売りの USB Type-C ケーブルを使用する場合は、ケーブルが USB-IF 認証のものであり、給電機能が備わっていることを確認してください。
- 接続するデバイスには、USB 給電によって充電できる USB Type-C コネクタが装備されていなければなりません。
- 接続したデバイスが稼働したり、ブートアップするために、プロジェクターが供給できる以上の電力を必要とする場合は、デバイスに付属していた元の電源アダプタをお使いください。

メニューを見る

プロジェクターで各種調整や設定を行えるように、設定メニューがあります。メニューにアクセスするには、⚙ > **すべての設定**を選択します。
実際のメニューとオプションは、国 / 地域によって異なります。プロジェクターの設定に関連するメニューがいくつかあります。メニューおよびオプションについての詳細は、https://tv.google/ をご覧ください。



デバイス名の設定

プロジェクターの名前は自由に変更できます。

入力

⚙ > すべての設定 > 入力

項目	操作と説明
入力切り替え	入力源を切り替えることができます。
入力	**HDMI 1/AUDIO RETURN+ / HDMI 2 / USB-C** 注意 下の設定は、3 つの入力源すべてに適用されます（**HDMI 1/AUDIO RETURN+**、**HDMI 2** および **USB-C**）。 ・ **この入力を表示** この特定の入力源を OSD メニューの**入力**セクションに表示させることができます。 ・ **PIN ロック** この特定の入力源に対して PIN を設定し、PIN ロック機能を有効 / 無効にします。有効にした場合は、この入力を変更する時にはこの入力の PIN が必要になります。 ・ **名前を編集** この入力源の名前を選択または変更できます。 ・ **信号なしスタンバイタイムアウト** プロジェクターがこの入力から信号を検出しない時間が一定時間経過すると、プロジェクターが自動的にオフになるようにタイマーを設定します。 ・ **HDMI EDID バージョン** この入力源の EDID バージョンを選択できます。
	グローバル CEC コントロール グローバル CEC コントロールを有効 / 無効にします。有効にすると、プロジェクターと接続デバイスが CEC を介して相互に制御できるようになります。
	プロジェクターで接続デバイスをオフにする プロジェクターの HDMI CEC 自動電源オフ機能を有効 / 無効にします。有効にすると、プロジェクターの電源を切ったときに、CEC に対応する接続済みのデバイスの電源も切れます。

	接続デバイスでプロジェクターをオンにする プロジェクターの HDMI CEC 自動電源オン機能を有効 / 無効にします。有効にすると、CEC に対応する接続デバイスの電源を入れると、プロジェクターの電源も入ります。

プロジェクター

⚙ > すべての設定 > プロジェクター

項目	操作と説明
フォーカス	画像の鮮明さとフォーカス設定を調整できます。
	自動フォーカス 画像の鮮明さを自動的に調整します。
	手動フォーカス フォーカスパターンを表示し、画像の鮮明さを手動で調整できます。
	フォーカス設定 • **スタートアップ時に自動フォーカス** プロジェクターの電源を入れた時に、自動フォーカスを有効 / 無効にします。 • **移動後に自動フォーカス** プロジェクターを動かした後、自動フォーカスを有効 / 無効にします。 • **ディープフォーカス常時動作** 画像をより鮮明にするために、ディープフォーカス機能を有効 / 無効にします。
台形補正	台形補正、スクリーンに合わせる、投写画像のスケールおよびシフト、台形補正設定の調整を実行します。
	自動台形補正 画像を自動的に矩形に調整して妨害物を回避します。47 ページの「台形補正」を参照してください。

項目	操作と説明
	手動台形補正 手動で台形補正を行います。47 ページの「台形補正」を参照してください。
	台形補正設定 • **スタートアップ時に自動台形補正** プロジェクターの電源を入れた時に、自動台形補正を有効 / 無効にします。 • **移動後の自動台形補正** プロジェクターを移動させた後、画像を矩形に自動調整させます。 • **リモコンで自動台形補正** リモコンのスクリーン調整ボタン ( ) を押した時、プロジェクターに自動台形補正を実行させます。 • **リモコンでスクリーンに自動的に合わせる** リモコンのスクリーン調整ボタン ( ) を押した時、台形補正を実行しながらスクリーンに合わせる機能を実行させます。48 ページの「スクリーンに合わせる」を参照してください。 • **障害物回避を常にオン** 台形補正を実行中に障害物を回避する機能を有効 / 無効にします。49 ページの「障害物を取り除く」を参照してください。
	画像変換 • **ズーム** 投写画像の縦横比を保ったままスケーリングします。 • **画像位置調整** 投写画像をシフトさせます。
	デフォルト画像にリセット 画像調整をリセットします。

項目	操作と説明
詳細設定	プロジェクターの詳細機能にアクセスします。
	Screen Sharing for iOS iOS/macOS デバイスから画面をキャストするための **Screen Sharing for iOS** アプリをインストールし、起動します。58 ページの「iOS/macOS デバイスからの画面キャスティング」を参照してください。
	自動スクリーンフィット 画像をスクリーンに自動的に合わせます。48 ページの「スクリーンに合わせる」を参照してください。
	障害物回避 障害物がスクリーンに影を作っていないかどうかを検出し、画像を自動的にリサイズして障害物を回避します。49 ページの「障害物を取り除く」を参照してください。
	スマートアイプロテクション スマートアイ保護機能を有効 / 無効にします。有効にすると、投写レンズの近くで人が検出されると、目を保護するために画像の輝度が下げられます。50 ページの「スマートアイプロテクションを有効にする」を参照してください。
	投影モード プロジェクターを設置する場所を変更できます。27 ページの「設置場所の選択」を参照してください。
	壁の色 画像を投写する予定の壁の色を選択することで、選択した色に基づいて画像の色を調整することができます。**白**、**スカイブルー**、**アイボリー**、**クリームイエロー**、**エッググリーン**、**薄いピンク**、または**自動**の中から選択できます。**壁の色**を**自動**に設定すると、プロジェクターは壁の色を検出し、その色に合わせて自動的に画像の色を調整します。

項目	操作と説明
	フォーカスキャリブレーション フォーカス機能をキャリブレートします。 注意 **フォーカスキャリブレーション**機能を実行する場合は、プロジェクターをスクリーンから 1.5-2 メートル離れた平坦な場所に設置します。
	台形補正キャリブレーション 台形補正機能をキャリブレートします。
	ALS キャリブレーション 環境照明センサー (ALS) の機能をキャリブレートします。
	12V トリガー 12V/0.5A 電源トリガー出力ポートからの 12V/0.5A 電源出力を有効 / 無効にします。 注意 電源トリガー出力ポートの位置については、20 ページの「入出力端子」をご覧ください。
	ファームウェアの高度な更新 MCU ファームウェアを補修用 USB Type-A ポートに接続した USB Type-A デバイスからアップグレードします。
エネルギーと性能	スクリーンの輝度を調整して、プロジェクターの性能を高めることができます。
	光源モード 画面の輝度を調整できます。50 ページの「画面の輝度を調整する」を参照してください。
	高地モード **高地モード**を有効 / 無効にします。31 ページの「高地でプロジェクターを使用するには」を参照してください。
	光源の使用時間 光源の使用時間数を時間で表示します。
	システムアクセラレーション プロジェクターの性能を高めるために、メモリスペースを開放するのに役に立ちます。

項目	操作と説明
Bluetooth スピーカーモード	プロジェクターを Bluetooth スピーカーモードに切り替えます。62 ページの「プロジェクターを Bluetooth スピーカーとして使用する」を参照してください。

ディスプレイとサウンド

⚙ > すべての設定 > ディスプレイとサウンド

項目	操作と説明
ディスプレイ	画像設定を調整できます。
	ピクチャモード コンテンツに合った画像モードを設定します。54 ページの「ビデオストリーミングに適した画像モードを選択する」を参照してください。
	輝度 投写画像の輝度は、0 から 100 までの段階で調整できます。
	コントラスト 投写画像のコントラストは、0 から 100 までの段階で調整できます。
	彩度 投写画像の彩度は、0 から 100 までの段階で調整できます。
	色相 投写画像の色相は、-50 から 50 までの段階で調整できます。
	シャープネス 投写画像のシャープネスは、0 から 20 までの段階で調整できます。

	上級者向け設定 • **ガンマ** ガンマ設定を調整できます。 • **DNR** DNR (Digital Noise Reduction) 設定を調整できます。 • **MPEG NR** MPEG (Moving Picture Experts Group) ノイズ軽減設定を調整できます。 • **グローバル コントラスト エンハンサー** グローバルコントラスト向上設定を調整できます。 • **ローカル コントラスト エンハンサー** ローカルコントラスト向上設定を調整できます。 • **MEMC** MEMC (Motion Estimate and Motion Compensation) 設定を調整できます。 • **ダイナミック カラーブースター** ダイナミック カラーブースター設定を調整できます。 • **カラーチューナー** カラーチューナー設定を調整できます。 • **11 ポイント ホワイトバランス** 投写画像のホワイトバランスを調整します。
	オーディオのみモード プロジェクターの光源をオフにします。 注意 光源を再度オンにするには、キーをどれでも押してください（電源キーおよびボリュームキー以外）。

	HDMI ディスプレイ設定 • **ゲームモード** ゲームモードの設定を調整できます。 • **ALLM** **ALLM** 機能を有効 / 無効にします。57 ページの「レイテンシー自動低減モード (ALLM)」を参照してください。 • **HDMI RGB 範囲** HDMI RGB 色域の設定を調整できます。
	デフォルトにリセット 画像設定を初期値に戻します。
スクリーン	投写画像の縦横比を調整します。 注意 この設定は、プロジェクターが Google TV モードになっている場合は使用できません。
	自動 画像を本機本来の解像度の水平幅または垂直幅に合わせて表示します。
	フル 画像をスクリーンにぴったりと合わせて表示します。
	ノンスケール 画像の縦横比を調整せずに、入力源と同じ本来の縦横比で投写します。
	4:3 スクリーンの中央が 4:3 の縦横比になるようにイメージを調整します。
	映画拡張 14:9 スクリーンの中央が 14:9 の縦横比になるようにイメージを調整します。
	映画拡張 16:9 スクリーンの中央が 16:9 の縦横比になるようにイメージを調整します。

サウンド	サウンドモードを選択し、スピーカーの設定を調整します。
	サウンド モード コンテンツに合ったサウンドモードを設定します。 55 ページの「ビデオストリーミングに適したサウンドモードを選択する」を参照してください。
	基本設定 • **バランス** スピーカーのオーディオバランスの設定を調整できます。 • **低音** スピーカーの低周波を調整できます。 • **高音** スピーカーの高周波を調整できます。 • **イコライザの詳細** スピーカーのイコライザの設定を調整できます。 • **自動音量調整** スピーカーの音量を自動的に調整させるかどうかを決定できます。
	スピーカー プロジェクターのスピーカーをオン / オフにします。
	スピーカーの遅延 オーディオ出力と画像投写の遅延を 0 から 250 ms の範囲で調整できます。
	ダウンミックスモード **ステレオ**および**サラウンド**を含む、ダウンミックスモードを選択できます。
	ダイアログエンハンサー **ダイアログエンハンサー**を有効 / 無効にして、**低**、**中**または**高**から向上レベルを設定できます。
	デフォルトにリセット サウンドモードとスピーカーの設定を初期値に戻します。

オーディオ出力	オーディオ出力設定を調整できます。
	デジタル出力 オーディオ信号出力のフォーマットを**自動**、**バイパス**、**PCM**、**MAT**、**ドルビーデジタル プラス**または**ドルビーデジタル**に設定できます。 **自動**を選択すると、プロジェクターが入力源を検出し、オーディオフォーマットを自動的に設定します。
	デジタル出力の遅延 プロジェクターの内部スピーカー、または外付けの有線オーディオデバイスを介して音声を出力する場合、オーディオ出力の遅延時間を 0 から 250 ms の範囲で調整できます。
	Bluetooth 遅延 プロジェクターに接続された Bluetooth オーディオデバイスを介して音声を出力する場合、オーディオ出力の遅延時間を 0 から 500 ms の範囲で調整できます。
	オーディオ出力デバイス オーディオ出力デバイスを**自動**、**TV スピーカー**、**HDMI eARC**、**Bluetooth**、または**ヘッドフォン**の中から選択できます。 **自動**を選択すると、プロジェクターがオーディオ出力デバイスを自動的に選択します。

ネットワークとインターネット

⚙ > **すべての設定** > **ネットワークとインターネット**
ネットワーク接続を構成します。無線接続を有効または無効にできます。

アカウントとプロファイル

⚙ > **すべての設定** > **アカウントとプロファイル**
アカウントの管理。

プライバシー

⚙ > すべての設定 > プライバシー
プライバシー設定を管理。

アプリ

⚙ > すべての設定 > アプリ
インストールされているアプリを管理。

システム

⚙ > すべての設定 > システム
デバイス設定にアクセス。

アクセスビリティ

⚙ > すべての設定 > アクセスビリティ
アクセシビリティ設定を構成します。

リモコンとアクセサリ

⚙ > すべての設定 > リモコンとアクセサリ
Bluetooth を使用してリモコンと手動でペアリングできます。またはペア化したデバイスを管理します。

ヘルプとフィードバック

⚙ > すべての設定 > ヘルプとフィードバック
Google TV のヘルプページを開いたり、フィードバックを送ったりできます。

メンテナンス

プロジェクターのお手入れ

ご使用のプロジェクターはほとんどメンテナンスの必要がありません。レンズを清潔に保つために、定期的なレンズのお手入れだけが必要です。プロジェクターのパーツは絶対に取り外さないでください。プロジェクターが正常に作動しなくなった場合は、販売店かサポートセンターへお問い合わせください。

レンズのクリーニング

表面に汚れやほこりが付いていたら、レンズのお手入れが必要です。レンズのお手入れを開始する前に、プロジェクターをオフにして完全に冷却してください。

- エアダスターを使ってほこりを取り除いてください。
- 汚れやしみが付いた場合は、レンズ クリーニング ペーパーまたはレンズ クリーナーで湿らせた柔らかい布でレンズの表面を軽く拭きます。
- 研磨用パッド、アルカリ性 / 酸性クレンザー、研磨剤入りパウダー、揮発性溶剤（アルコール、ベンジン、シンナー、殺虫剤）などは一切ご使用にならないでください。ゴムやビニール部分にこのような素材を使用したり、長期間これらを付着させたままの状態にしておくと、プロジェクターの表面やキャビネットの素材が劣化する場合があります。

> 注意
>
> ワックス、アルコール、ベンジン、シンナー、その他の化学洗剤は使用しないでください。こうした薬剤を使用すると、ケースを傷める場合があります。

プロジェクターの保管

長期間プロジェクターを保管する必要がある場合、次の手順に従ってください。

- 保管場所の温度と湿度が、プロジェクターの推奨範囲内であることを確認します。詳細は、84 ページの「仕様」を参照するか、販売店にお尋ねください。
- リモコンから電池を取り外します。
- プロジェクターを元の梱包または同等の梱包に入れます。

プロジェクターの移動

プロジェクターを搬送するときは、元の梱包または同等の梱包で行うことを推奨します。

光源情報

ライトの使用時間を確認するには、⚙ > **すべての設定** > **プロジェクター** > **エネルギーと性能** > **光源の使用時間**を選択します。

問題を解決する

LED インジケータが点滅している。

電源 LED の状態	シナリオ
赤く点灯	ファンエラー
赤 / 緑で点滅	温度エラー
オレンジ / 緑に点滅	光源の寿命が切れました
緑 / 紫で点滅	DLP 通信エラー
紫 / 赤く点滅	G センサー エラー
紫に点灯	ドライバボード エラー
紫で点滅	TOF センサー エラー

カスタマーサービスにお問合せください。

注意

電源 LED インジケータの詳細については、33 ページの「電源 LED インジケータ」をお読みください。

プロジェクターの電源がオンにならない。

可能性のある原因	対応
電源コードから電源が来ていません。	電源コードがプロジェクターの AC 電源ジャックとコンセントに正しく挿入されていることを確認してください。また、コンセントにスイッチがある場合は、スイッチがオンになっていることを確認してください。
冷却プロセスの間にプロジェクターの電源をオンにしようとしています。	冷却プロセスが完了するまでお待ちください。

画像が映らない。

可能性のある原因	対応
ビデオ入力がオンになっていないか、正しく接続されていません。	• ビデオ入力が正しく接続されていることを確認してください。 • プロジェクターはオーディオ専用モードまたはネットワークスタンバイ モードになっていることがあります。電源キーを押すと無効になります。
プロジェクターが正しく入力信号デバイスに接続されていません。	接続を確認します。
入力信号が正しく選択されていません。	キーを使って正しい入力信号を選択してください。

画像がぼやけます。

可能性のある原因	対応
投写レンズの焦点が合っていません。	レンズの焦点を手動で調整してください。 46 ページの「画像の明瞭さの微調整」を参照してください。
プロジェクターとスクリーンの位置が正しく合っていません。	投写角度および方向、また必要であればプロジェクターの高さを調整します。
自動キーストーン機能が作動しない。	投写角度を調整してください。
ToF センサーが汚れています。	清潔なクロスでセンサーをやさしく拭きます。ホコリや指紋を除去します。

リモコンが機能しない。

可能性のある原因	対応
電池が切れています。	新しい電池に交換してください。
リモコンとプロジェクターの間に障害物があります。	障害物を取り除いてください。
プロジェクターからの距離が遠すぎます。	プロジェクターから 8 メートル（26 フィート）以内の場所で操作してください。

仕様

プロジェクターの仕様

カテゴリー	項目	説明
表示	輝度（ANSI ルーメン）	3000
	ネイティブ解像度	UHD (3840 x 2160)
	ネイティブ アスペクト比	16:9
	コントラスト比 (FOFO)	600000:1
	画面の色数	30 ビット（10.7 億色）
	光源	LED
	光源の寿命	エコ：30000 時間 ノーマルモード：20000 時間
光学仕様	投写比	- TK705i：1.0 – 1.3 - TK705STi：0.8
	ズーム倍率	固定
	メカニックズーム	- TK705i：1.3 - TK705STi：該当なし
	レンズ	- TK705i：F/# = 1.8-1.85、f = 10.55-13.68 mm - TK705STi：F/# = 1.8、f = 8.498 mm
	投写オフセット（最も高くした場合）	100%
	台形補正	（自動）垂直：± 30 度（1 本軸）、水平：± 20 度（1 本軸）
	鮮明な画像サイズ	60" – 150"
	投写サイズ	30" – 300"
画像	Rec. 709 カバー範囲	98%
互換性	解像度サポート	VGA (640 x 480) から 4K UHD (3840 x 2160)
	水平周波数	15 kHz – 102 kHz
	垂直周波数	23 Hz – 120 Hz
	HDTV 互換	480i、480p、576i、567p、720p、1080i、1080p、2160p
I/O インターフェイス	HDMI 入力	(x2) - HDMI-1 (CEC) - HDMI-2（CEC / マルチチャンネルオーディオ出力と Audio Return+）
	USB Type-A	(x1) USB 2.0 (5V 1.5A)：補修および電源（最大 5V/1.5A）/USB リーダー / ファームウェアアップグレード
	USB Type-C	(x1) DisplayPort 1.4 / PD 出力 5V (2A) / 9V (2A) / 12V (1.5A) / 15V (2A) / メディアリーダー USB 2.0
	12V/0.5A トリガー	(x1)

カテゴリー	項目	説明
オーディオ	スピーカー	(x2) 8 W
	オーディオ出力（3.5 mm ミニジャック）	(x1)
	HDMI Audio Return+	eARC、5.1 チャンネルにバイパス、7.1 チャンネル
環境	電源	AC 100 - 240 V、50/60 Hz
	消費電力	250 W（最大）、< 0.5 W（スタンバイ）
	ネットワーク接続時の消費電力	2 W / < 0.5 W
	運転音（標準 / エコ）(dB)	28 dBA / 24 dBA
	動作温度範囲	0°C – 40°C
	保管温度	-20°C – 60°C（結露なきこと）
	動作相対湿度範囲	10% ~ 90% RH（結露なきこと）
	保管相対湿度	10% ~ 90% RH（結露なきこと）
スマート機能	Bluetooth	Bluetooth 5.2
	Wi-Fi 規格	802.11 a/b/g/n/ac/ax (2.4G / 5G)
寸法と重量	本体重量 (kg)	3.8 kg
	本体重量 (lb)	8.4 lb
	寸法（幅 x 奥行き x 高さ）(mm)	229.2（幅）x 249.7（奥行き）x 168.2（高さ）
	寸法（幅 x 奥行き x 高さ）（インチ）	9.02（幅）x 9.83（奥行き）x 6.62（高さ）
投写システム	投写システム	DLP
	DMD サイズ	0.47"

注意

- LED の寿命は、環境条件と使用条件により異なります。
- Wi-Fi および Bluetooth の性能は、距離と障害物の有無により変わります。

タイミングチャート

HDMI 入力

PC

解像度	モード	垂直周波数 (Hz)	水平周波数 (KHz)	ドットクロック周波数 (MHz)
640 x 480	VGA_60	59.940	31.469	25.175
800 x 600	SVGA_60	60.317	37.879	40.000
1024 x 768	XGA_60	60.004	48.363	65.000
1280 x 720	1280 x 720_60	60	45.000	74.250
1280 x 800	WXGA_60	59.810	49.702	83.500
1600 x 1200	UXGA	60.000	75.000	162.000
1600 x 1200	1920 x 1080_60	60.00	74.04	154.00
1920 x 1080@60HZ	1920 x 1080_60 (CEA-861)	60	67.5	148.5
2560 x 1440@60HZ	2560 x 1440_60	59.951	88.787	241.5
3840 x 2160	3840 x 2160_30 （4K/2K モデル）	30	67.5	297
3840 x 2160	3840 x 2160_60 （4K/2K モデル）	60	135	594

ビデオ

タイミング	解像度	垂直周波数 (Hz)	水平周波数 (KHz)	ドットクロック周波数 (MHz)
480i	720(1440) x 480	60	15.73	27
480p	720 x 480	59.94	31.47	27
576i	720(1440) x 576	50	15.63	27
576p	720 x 576	50	31.25	27
720/50p	1280 x 720	50	37.5	74.25
720/60p	1280 x 720	60	45.00	74.25
1080/24P	1920 x 1080	24	27	74.25
1080/25P	1920 x 1080	25	28.13	74.25
1080/30P	1920 x 1080	30	33.75	74.25
1080/50i	1920 x 1080	50	28.13	74.25
1080/60i	1920 x 1080	60	33.75	74.25
1080/50P	1920 x 1080	50	56.25	148.5
1080/60P	1920 x 1080	60	67.5	148.5
2160/24P	3840 x 2160	24	54	297
2160/25P	3840 x 2160	25	56.25	297
2160/30P	3840 x 2160	30	67.5	297
2160/50P	3840 x 2160	50	112.5	594
2160/60P	3840 x 2160	60	135	594

注意

設定可能なタイミングは、EDID ファイルおよび VGA グラフィックカードに限られており、VGA ディスプレイカードでこれ以上のタイミングを選択することはできません。

オーディオフォーマット

- 1.4.1 オーディオフォーマット コード：LPCM
  チャンネル：2
  サンプリング周波数：32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
  サンプリングサイズ（ビット）：24、20、16
- 1.4.2 オーディオフォーマット コード：ドルビーデジタル
  チャンネル：6
  サンプリング周波数：32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
  高ビットレート：640 kbps
- 1.4.3 オーディオフォーマット コード：ドルビーデジタル プラス
  チャンネル：8
  サンプリング周波数：44.1 kHz、48 kHz

USB Type-C 入力

PC

解像度	モード	垂直周波数 (Hz)	水平周波数 (KHz)	ドットクロック周波数 (MHz)
640 x 480	VGA_60	59.94	31.469	25.175
800 x 600	SVGA_60	60.317	37.879	40
1024 x 768	XGA_60	60.004	48.363	65
1280 x 720	1280 x 720_60	60	45	74.25
1280 x 768	1280 x 768_60	59.87	47.776	79.5
1280 x 800	SVGA_60	59.81	49.702	83.5
1280 x 1024	SXGA_60	60.02	63.981	108
1280 x 960	1280 x 960_60	60	60	108
1360 x 768	1360 x 768_60	60.015	47.712	85.5
1440 x 900	WXGA+_60	59.887	55.935	106.5
1440 x 1050	SXGA+_60	59.978	65.317	121.75
1680 x 1050	1680 x 1050_60	59.954	65.29	146.25
1920 x 1080@60HZ	1920 x 1080_60 (CEA-861)	60	67.5	148.5

ビデオ

タイミング	解像度	垂直周波数 (Hz)	水平周波数 (KHz)	ドットクロック周波数 (MHz)
480i	720(1440) x 480	59.94	15.73	27
480p	720 x 480	59.94	31.47	27
576i	720(1440) x 576	50	15.63	27
576p	720 x 576	50	31.25	27
720/50p	1280 x 720	50	37.5	74.25
720/60p	1280 x 720	60	45.00	74.25
1080/24P	1920 x 1080	24	27	74.25
1080/25P	1920 x 1080	25	28.13	74.25
1080/30P	1920 x 1080	30	33.75	74.25
1080/50i	1920 x 1080	50	28.13	74.25
1080/60i	1920 x 1080	60	33.75	74.25
1080/50P	1920 x 1080	50	56.25	148.5
1080/60P	1920 x 1080	60	67.5	148.5
1440/60P	2560 x 1440	59.951	-	241.5
2160/60P	3840 x 2160	60	-	-
2160/50P	3840 x 2160	50	-	-
2160/30P	3840 x 2160	30	-	-
2160/25P	3840 x 2160	25	-	-
2160/24P	3840 x 2160	24	-	-

注意

設定可能なタイミングは、EDID ファイルおよび VGA グラフィックカードに限られており、VGA ディスプレイカードでこれ以上のタイミングを選択することはできません。

オーディオフォーマット（DP-Alt モード基準）

- オーディオフォーマット コード：LPCM
  チャンネル：2
  サンプリング周波数：32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
  サンプリングサイズ（ビット）：24、20、16

対応ファイル形式

ビデオ

MPEG-2 ビデオ デコーダー

- ISO/IEC 11172-2 MPEG-1 ビデオフォーマット デコード
- ISO/IEC 13818-2 MPEG-2 ビデオ MP@HL および HD レベル
- 最大 HDTV（1080p60、1080i、720p）および SDTV までの解像度に対応
- 最大 60 Mbps のビットレートに対応
- FHDp60 2x 高速早送り再生に対応

MPEG-4/H.263 ビデオデコーダー

- ISO/IEC 14496-2 MPEG-4 ASP@L5/SP@L6
- 最大 HDTV (1080p@60fps) までの解像度に対応
- 最大 60 Mbps のビットレートに対応

AVC/H.264 ビデオデコーダー

- ITU-T H.264、ISO/IEC 14496-10（MP/HiP/CBP 最高 5.2 レベル）ビデオデコード
- 最大 4K@60fps + 720p@30fps までの解像度に対応
- 最大 135 Mbps のビットレートに対応

HEVC/H.265 ビデオデコーダー

- HEVC/H.265 ビデオデコードに対応
- メイン / メイン -10 プロファイル、レベル 5.1 に対応
- 色深度 8 ビット /10 ビットに対応
- 最大 4K@60fps + 720p@30fps までの解像度に対応
- 最大 100 Mbps のビットレートに対応

VP8 ビデオデコーダー

- Google VP8 デコーダー対応
- 最大 1920x1080@60fps までの解像度に対応
- 最大 40 Mbps のビットレートに対応

VP9 ビデオデコーダー

- Google VP9 デコーダー対応
- プロファイル 0/2 および色深度 8 ビット /10 ビットに対応
- 最大 4K@60fps + 720p@30fps までの解像度に対応
- 最大 100 Mbps のビットレートに対応

AV1 ビデオデコーダー

- AV1 ビデオデコードに対応
- メインプロファイル、レベル 5.1 に対応
- 色深度 8 ビット /10 ビットに対応
- 最大 4K@60fps + 720p@30fps までの解像度に対応
- 最大 100 Mbps のビットレートに対応

VC-1 ビデオデコーダー

- 最大 AP@L4 までの SMPTE-421M（VC-1 ビデオ）に対応
- 最大 HDTV (1080p@60fps) までの解像度に対応
- 最大 60 Mbps のビットレートに対応

オーディオ

対応するデジタルオーディオ フォーマット：

- MPEG-1
- MPEG-2 (Layer I/II)
- MP3
- AAC-LC
- HE-AAC
- WMA
- WMA9 Pro

HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

BenQ.com

© 2026 BenQ Corporation。
All rights reserved. 内容を変更する権利を有します。